

日本プロテオーム学会2022年大会

JPrOS2022 (20th JHUPO)

JPrOS ReCONNECT

“コロナ禍を乗り越え、活発な議論の再会を目指す”

2022年8月8日(月)~10日(水)

大会長：小寺 義男 (北里大学)

会 場：北里大学 相模原キャンパス

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1 TEL:042-778-8111



日本プロテオーム学会 2022 年大会

JPrOS2022 (20th JHUPO)

プログラム集

会 期 2022 年 8 月 8 日(月)～ 10 日(水)

会 場 北里大学相模原キャンパス L1 号館

大会長 小寺 義男 (北里大学理学部)

主 催 日本プロテオーム学会 (JPrOS)

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPO)

大会長挨拶

JPrOS ReCONNECT —コロナ禍を乗り越え、活発な議論の再開を目指す—



日本プロテオーム学会2022年大会 大会長
日本プロテオーム学会 会長

小寺 義男 (北里大学)

日本プロテオーム学会2022年大会（JHUPO第20回大会）を北里大学相模原キャンパスにて2022年8月8日から10日の日程で開催いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、オンラインでのコミュニケーションが日常的になってまいりました。本学会においても2020年大会、2021年大会は中止またはオンラインでの開催を余儀なくされました。しかしながら、本来研究に必要な自由な発想や興味は、様々な分野の専門家が対面で、自由に、熱く議論し、語り合うことが重要であると再認識されてきています。そこで本大会は、“JPrOS ReCONNECT”を合言葉に対面で開催することに決定いたしました。

2002年にHUPO及びAOHUPOの日本側対応機関として設立された本学会は今年で20年目を迎えます。この間、各種プロテオーム解析技術は大きく進歩し、様々な分野におけるプロテオミクスの重要性が高まってきています。そこで、我が国のプロテオミクスのさらなる発展を祈念し、第20回特別企画として記念講演会ならびにPre-Congress Webinarを開催することといたしました。記念講演会では2002年ノーベル化学賞を受賞されました田中耕一先生にご講演いただくとともに、本学会を創成期からけん引いただき、国際化にも大きく貢献されました谷口直之先生、中村和行先生、平野久先生、山本格先生に日本プロテオーム学会20年の歩みについてご講演いただきます。また、プロテオミクス教育講演、学会のアクティビティ紹介を通してプロテオミクスの現在地を紹介させていただきます。2日目と3日目には、特別講演としてプロテオミクスの第一人者の一人であるAkhilesh Pandey先生に、基調講演として朝長毅先生、小原收先生、KHUPOのJin Han先生にご講演いただきます。ご多用の中ご講演いただきます諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本大会は、多くの皆様がコロナ禍を乗り越えて一堂に会し、発展著しいプロテオーム解析の最新技術、基礎生物学から農学・薬学・医学への応用、データサイエンス、プロテオミクスがリードする統合オミクス解析、細胞と分子をつなぐ生命システム研究などの幅広い研究成果の発表と議論、そして、ランチョンセミナーや展示ブースを介した最新技術・分析装置などの情報交換を再開する場として開催したいと考えております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPO)

大会組織委員会

大会長：小寺 義男（北里大学）

副大会長：紀藤 圭治（明治大学）
松本 雅記（新潟大学）

実行委員会

足達 俊吾（産業技術総合研究所）
足立 淳（医薬基盤栄養・健康研究所）
荒川 憲昭（国立医薬品食品衛生研究所）
川島 祐介（かずさDNA研究所）
木下 英司（広島文教大学）
木村 弥生（横浜市立大学）
榊原 陽一（宮崎大学）
杉山 直幸（京都大学）
曾川 一幸（麻布大学）
武森 信暁（愛媛大学）
長塩 亮（北里大学）
肥後 大輔（サーモフィッシャーサイエンティフィック）
松井 崇（北里大学）
松本 俊英（北里大学）
増田 豪（熊本大学）
若林 真樹（国立循環器病研究センター）

プログラム委員会

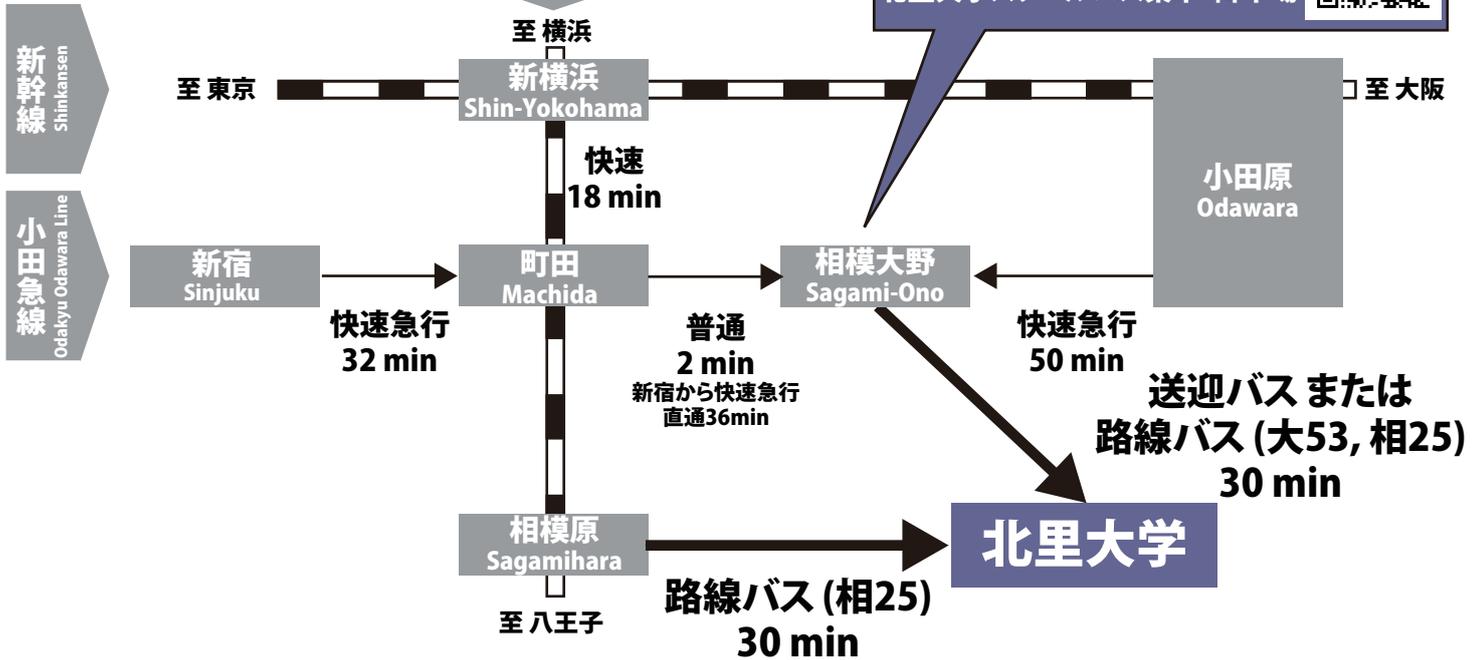
委員長：石濱 泰（京都大学）

荒木 令江（熊本大学）
岩崎 未央（京都大学）
河野 信（富山国際大学）
紀藤 圭治（明治大学）
木村 弥生（横浜市立大学）
小寺 義男（北里大学）
武森 信暁（愛媛大学）
田中 恒平（田辺三菱製薬株式会社）
増田 豪（熊本大学）
松本 雅記（新潟大学）

日本プロテオーム学会2022年大会
JPrOS2022 (20th JHUPO)

アクセス

交通案内



キャンパスマップ

北里大学相模原キャンパス
神奈川県相模原市南区北里1-15-1

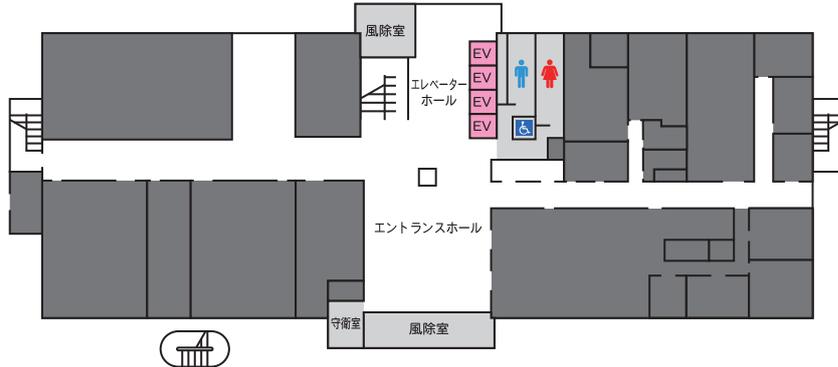


送迎バスは会場のL1号館前で下車可能。
路線バスは、「北里大学病院・北里大学」下車後、
赤矢印に沿って移動願います。

会場案内図

1F

送迎バス出発口
Bus Boarding Point



送迎バス到着口
Bus Drop-off

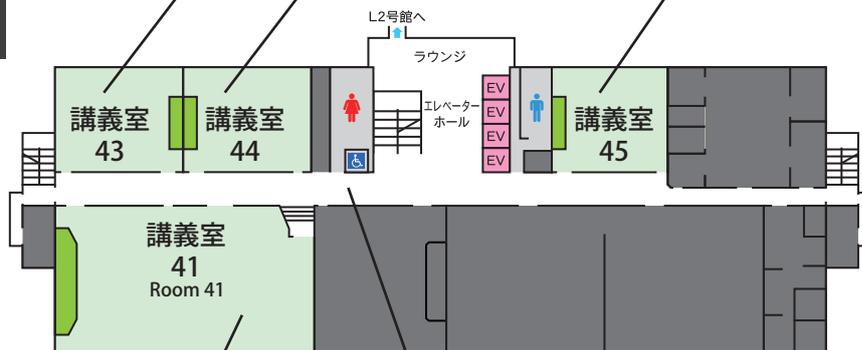


北里柴三郎像

4F

ポスター会場
Poster Exhibition

休憩室
Lounge Space



B 会場
Room B

企業展示
(廊下等)
Corporate Exhibition

6F

受付
Reception

PC 受付
PC desk

大会議室



A 会場
Room A

休憩室
Lounge Space

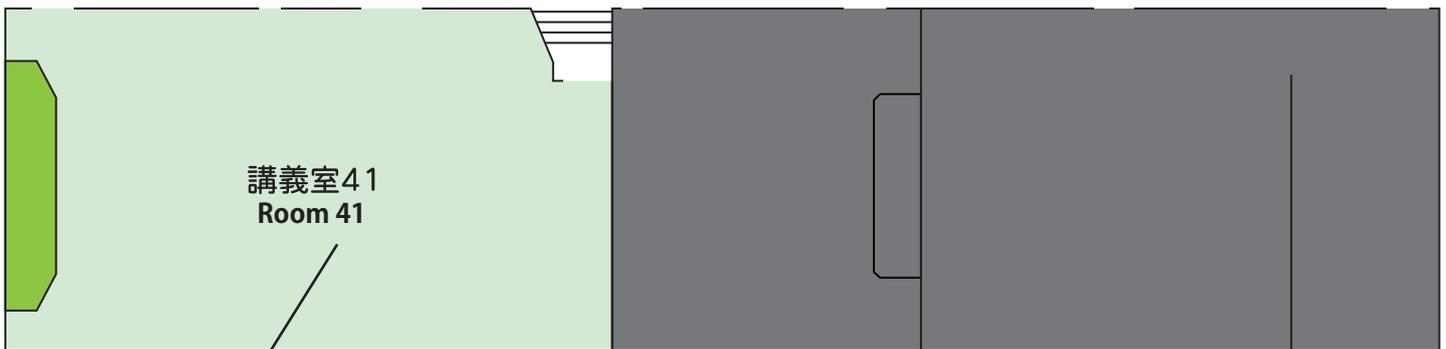
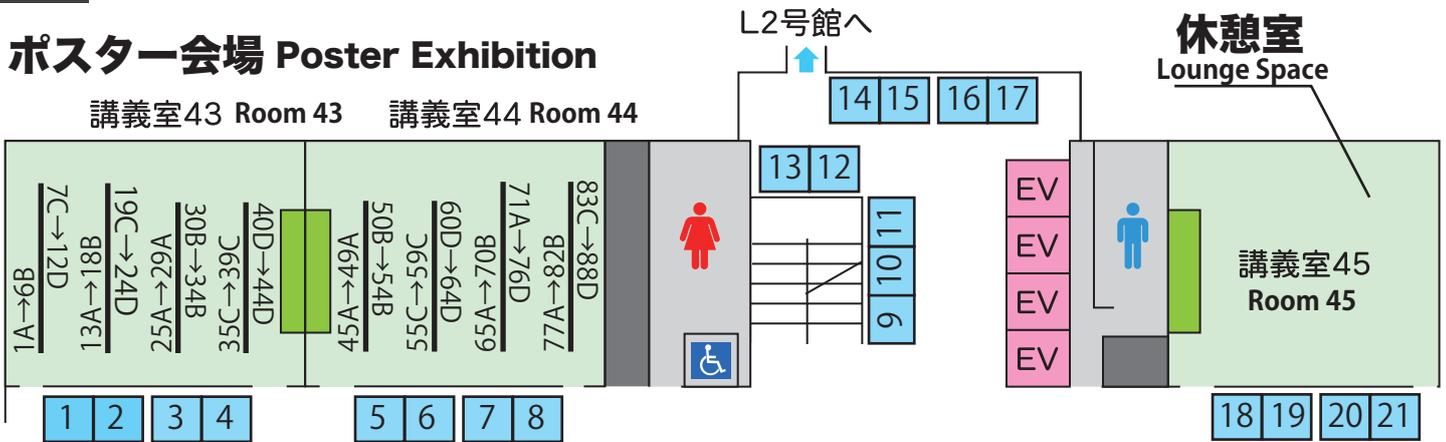
クローク
Cloakroom

ポスター・企業展示ブース案内図

4F

ポスター会場 Poster Exhibition

講義室43 Room 43 講義室44 Room 44



B会場
Room B

企業展示ブース Corporate Exhibition

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1: (株) スクラム | 12: ブルカージャパン (株) |
| 2: メルク (株) | 13: 日本カンタム・デザイン (株) |
| 3: プロメガ (株) | 14: インフォコム (株) |
| 4: (株) エービー・サイエックス | 15: (株) ナード研究所 |
| 5: プレシジョン・システム・サイエンス (株) | 16: 大塚製薬 (株) |
| 6: テクノアルファ (株) | 17: エーエムアール (株) |
| 7: マトリックスサイエンス (株) | 18: (株) 島津製作所 |
| 8: サーモフィッシャーサイエンティフィック (株) | 19: (株) ファーマフーズ アプロサイエンスグループ |
| 9: (株) KM データ | 20: (株) エル・イー・テクノロジーズ |
| 10: (株) メディカル・プロテオスコープ | 21: BGI JAPAN (株) |
| 11: (株) 東レリサーチセンター | |

来場者へのご案内

新型コロナウイルス感染対策として、下記の通り対策を講じての開催といたします。

空間確保と感染予防

- ①: 各会場では席の間引きを行います。
- ②: 運営スタッフ、協賛企業関係者はマスクを常時着用いたします。
- ③: 受付には間仕切りを設置いたします。
- ④: 運営スタッフの健康チェックをいたします。
(出勤前の行動確認、検温確認、体調確認→体調不良時の出勤停止)
- ⑤: 来場者については健康状態申告書にて健康チェックを行います。
- ⑥: 受付、各会場入口に消毒液を設置します。
- ⑦: マイク、機材等の消毒作業を行います。

現地会場での対策とお願い

- ①: 常時マスクの着用をお願いいたします。
- ②: 以下の場合は参加を控えるようお願いいたします。
 - A) 37.5 度以上の発熱がある時
 - B) 咳・咽頭痛・息苦しさ等の症状が認められる時
 - C) 保健所等の健康観察下にある時
 - D) 政府が指定する期間に海外渡航歴がある時
(当該期間に帰国した方と接触した場合も含む)
 - E) その他、体調が優れない時
(味覚・嗅覚異常を感じる時や疲労倦怠感を強く感じる時などを含む)
- ③: 参加者は建物入口付近にて検温を行ってください。
(体温が 37.5 度以上の際は入場をお断りさせていただきますので予めご了承ください)
- ④: 厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)の登録をお願いいたします。

来場者の皆様におかれましてはご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

※記載の内容は状況に応じて急遽変更となる可能性がございます。

口頭発表について

演者の方へ

講演時間

特別講演: 60 分 (質疑応答を含む)

基調講演: 45 分 (質疑応答を含む)

受賞講演: 10-20 分

シンポジウム: 10-30 分 (質疑応答を含む)

教育講演: 24 分 (質疑応答を含む)

※注意事項

ご発表には演者ご自身の PC を使用します。ご発表のセッションの開始 15 分前までに、予め公演会場外に設置された PC 受付にて PC 接続を確認してください。万一のため、データを USB メモリでもご持参ください。講演時間終了間近および終了時にベルが鳴ります。講演時間をお守りください。

* ご持参いただくノート PC については、以下の項目をご確認ください。

- スクリーンセーバー、省電力設定、パスワード等は必ず解除してください。
- 電源アダプターを必ずお持ちください(予備の電源アダプターの用意はございません)。
- **(注意!!)** 会場の液晶プロジェクターとの接続は、**HDMI での接続**となります。一部の機種では、変換アダプターが必要となる場合がありますので、忘れずにご持参ください。ミニ Dsub15 ピンでの接続も可能です**(非推奨)**。
- 画面の解像度は 1920 X 1080 ピクセル(HD)まで対応可能となります。このサイズより大きい場合は、スライドが切れまますので、ご注意ください。

HDMI (推奨)



ミニ Dsub15 ピン (非推奨)



言語

講演スライドの表記は可能な限り英語でお願いいたします。発表言語は、日本語もしくは英語でお願いいたします。

利益相反に関して

利益相反に関する掲示を明記して下さい(申告すべき COI がない場合も、その旨を記載願います)。

座長の方へ

ご担当のシンポジウムが始まる 15 分前には、会場にお越しください。タイムキーパーは事務局側で用意します。スケジュールに余裕がありませんので、定時進行にご協力ください。写真撮影行為は、適切に制止してください。また、時間となりましたら座長の先生よりシンポジウムの開始をご案内いただき、進行くださいますようお願いいたします。

ポスター発表について

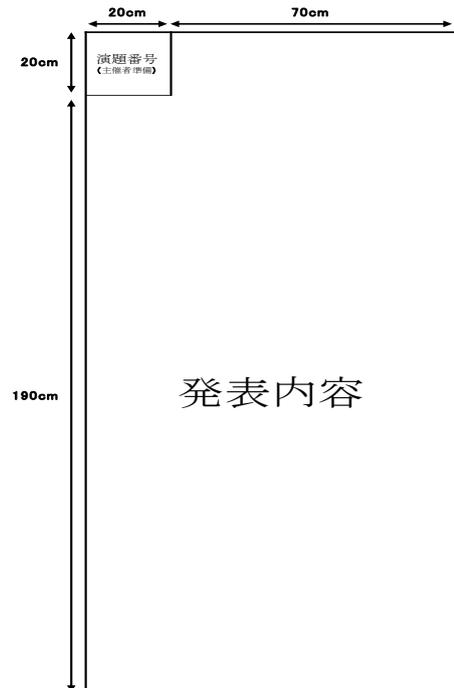
ポスター会場は 4 階講義室 43・44 です。
ポスターボードの大きさは幅 90cm、高さ 210cm です。
画鋏での貼り付けになります。

ポスター掲示日時

8 月 9 日(火)9:30～8 月 10 日(水)16:00
(ポスターは 8 月 8 日の 16 時から貼ることができます)

ポスター説明時間(コアタイム)

- ◆ 密を避けるためポスター説明時間を4つに分けます。
- ◆ 座長は設けませんので、代表発表者は、以下の時間にポスターの前に待機して自由討論してください。
- ◆ 開始 5 分前までにご自身のポスター前に待機してください。
- ◆ ポスター番号は通し番号の後ろにグループを示す A～D のローマ字がついています。
例) 1A, 2B, 3C, 4D, 5A, 6B, 7C, 8D, 9A, 10B……
- ◆ 発表時間は以下の通りです
A グループ 8 月 9 日(火)12:30～13:15
B グループ 8 月 9 日(火)13:15～14:00
C グループ 8 月 10 日(水)12:30～13:15
D グループ 8 月 10 日(水)13:15～14:00



利益相反関して

発表される先生は、ポスターの最後に利益相反に関する掲示を必ず入れてください。(右図: 申告すべき COI 状態が無い場合の例)

日本プロテオーム学会2022年大会 COI開示
筆頭発表者名: ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

ポスター撤去日時

3 日目 8 月 10 日(水)16:00～17:00

撤去されないポスターは、事務局で処分いたしますので、予めご了承ください。

Keeping Attendees Safe

To promote the safety of everyone at the conference, the organizing committee will follow the guidance and requirements of the Ministry of Health, Labour and Welfare, Kanagawa prefecture, and Kitasato University regarding COVID safety policies. This Attendee Safety Plan may change from time to time until the start of the conference.

Measures to prevent the spread of COVID-19

1. Reduce the number of seats in the rooms to keep a distance from others.
2. All staffs keep wearing masks properly.
3. Plastic wall partitions are installed at the reception desk.
4. All staffs measure the medical check described below to make sure they are normal before coming to the place.
(confirming movement history, measuring body temperature, having no abnormal symptoms)
5. The organizing committee requires all attendees to submit a health declaration.
6. Hand sanitizers are installed at the desk and the entrance of each room.
7. The surfaces of shared items, such as microphones, are wiped clean with sanitizer as appropriate.

Request for all attendees

1. Keep wearing a mask properly during the conference.
2. Having the following symptoms and/or situations, the organizing committee **DO NOT** permit you attending at this conference.
 - A) Body temperature is over 37.5°C.
 - B) Abnormal symptoms such as fever, dullness and other cold-like symptoms, and smell or taste disorder.
 - C) Requested to stay at home by local health authorities due to getting infected with COVID-19 or the possible close contact with COVID-19 patients.
 - D) Attendee whom the Japanese government needs to quarantine depends on the classification of the country or region of your stay. Please confirm the detail from the following URL (<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/bordercontrol.html>).
(Including close contact with the person staying in the above country or region during the quarantine period)
3. Require measuring body temperature at the entrance.
4. The organizing committee recommends all attendees install COCOA provided by the Ministry of Health, Labour, and Welfare on their smartphones.

Thank you for your kind corporation.

Presentation Guidelines

Oral Presentations

Plenary lecture: 60 min (incl. discussion)

Keynote lecture: 45 min (incl. discussion)

Award lecture: 10–20 min

Symposium: 10–30 min (incl. discussion)

Educational seminar: 24 min (incl. discussion)

- The organizing committee recommends the speakers to use their own laptop computers with an HDMI connector for data projection, to avoid trouble due to incompatibility. Please bring the AC power adaptor for your computer. HDMI cable is prepared for use. Make sure to test your data projection at the PC desk before your session.

HDMI (recommend)



Dsub15pins (Not-recommend)



Disclosure of Conflicts of Interest

The committee require the speakers to disclose any conflicts of interest (COI) in relation to the work presented in the conference.

Guidelines for Poster Presenters

All posters are displayed and presented in the poster exhibition rooms (Room 43 and 44) during this conference. The poster numbers supplied by the organizing committee will be placed in the upper left-hand corner of each poster board. It is important that you do not move locations.

Set-up Day Time/Tear-down Day Time

Each author is responsible for mounting your material using pushpins prior to the opening of the first hour of the poster session (0:30 PM on Tuesday, August 9).

You must remove your poster no later than 4:00 PM on Wednesday, August 10.

Posters left in the exhibition rooms after that time may be discarded.

All posters will be set-up from 4:00 PM on Monday, August 8.

Poster Presentation Information and Dates

Author must stand at your poster during your assigned 45-minute presentation time. The presentation time is assigned as below. You are free to visit other posters during your free hour.

Poster No.	Presentation Time
1A, 5A, 9A, ...	Tue. Aug. 9 0:30 PM–1:15 PM
2B, 6B, 10B, ...	Tue. Aug. 9 1:15 PM–2:00 PM
3C, 7C, 11C, ...	Wed. Aug. 10 0:30 PM–1:15 PM
4D, 8D, 12D, ...	Wed. Aug. 10 1:15 PM–2:00 PM

Format

Each poster board measures 90 cm wide × 210 cm high.

All posters should feature a title, authors, and affiliations as appropriate.

Disclosure of Conflicts of Interest

The committee requires the speakers to disclose any conflicts of interest (COI) in relation to the work presented in the conference.

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPPO)

日程表

8月8日 (月) ~ 8月10日 (水)

スケジュール

8/8
(月)

9

10

11

12

13

A会場
(大講義室63)

12:15 12:30-13:30

開
会
式

特別講演 1
田中耕一
座長:小寺義男

B会場
(講義室41)

大会議室
(6F)

ポスター・展示会場
(講義室43・44, 4F廊下)

8/9
(火)

9

10

11

12

13

A会場
(大講義室63)

9:30-10:15
基調講演 1
朝長毅
座長:本田一文

10:15-11:25
疾患プロテオミクス:病態
の理解から治療法の開発へ
座長:近藤格, 田中恒平

11:30-12:20
ランチョン 1
サーモフィッシャー
サイエンティフィック

B会場
(講義室41)

9:30-11:25
蛋白質科学会との合同セッション
座長:小迫英尊, 児嶋長次郎

11:30-12:20
ランチョン 2
ブルカー・ジャパン

大会議室
(6F)

11:30-12:25
理事会

ポスター・展示会場
(講義室43・44, 4F廊下)

9:00-19:30

企業展示・ポスター掲示

12:30-13:15

ポスター
セッション
A

8/10
(水)

9

10

11

12

13

A会場
(大講義室63)

9:30-10:15
基調講演 3
Jin Han
座長:近藤格

10:15-11:25
機能プロテオミクス
座長:松本雅記, 足達俊吾

11:30-12:20
ランチョン 3
エーエムアール

B会場
(講義室41)

9:30-11:25
学生発表
優秀発表賞選考
座長:紀藤圭治, 松本俊英

11:30-12:20
ランチョン 4
エービー・
サイエックス

大会議室
(6F)

ポスター・展示会場
(講義室43・44, 4F廊下)

9:00-16:00

企業展示・ポスター掲示

12:30-13:15

ポスター
セッション
C

8/7
(日)

オンライン

20

21

22

23

24

21:30-24:00

Pre-Congress Webinar
Top-Down Proteomics
座長：武森信暁

14

15

16

17

18

19

13:30-15:30

プロテオミクス教育講演
座長：堂前直，肥後大輔

15:30-16:30

JPrOS
活動紹介
座長：大槻純男，奥田修二郎

16:30-17:30

JPrOS2022
シンポジウム紹介

17:30-18:45

JPrOS
ヒストリア
座長：荒木令江，平野久

16:30-17:30

ワークショップ 1
JPrOS Vision
座長：石濱泰

17:30-18:30

ワークショップ 2
スキルアップ
座長：岩崎未央，石濱泰

18:30-19:30

ワークショップ 3
ジョブマッチングカフェ
座長：岩崎未央

16:00-19:30

企業展示・ポスター掲示

14

15

16

17

18

19

14:00-15:00

特別講演 2
Akhilesh Pandey
座長：植田幸嗣

15:45-17:05

次のプロテオミクスを担う
最先端技術
座長：増田豪，川島祐介

17:15-18:00

基調講演 2
小原收
座長：石濱泰

18:05-19:30

タンパク質翻訳研究と
オミクスの融合
座長：今見孝志，丹羽達也

15:45-17:05

生理活性ペプチドが拓く
新たな世界
座長：若林真樹，佐々木一樹

18:05-19:30

データベース・
データ解析
座長：河野信，小林大樹

13:15-14:00

ポスター
セッション
B

9:00-19:30

企業展示・ポスター掲示

15:00-15:45

コミュニケーションタイム
・企業展示見学
・ポスター議論

9:00-19:30

企業展示・ポスター掲示

14

15

16

17

18

19

14:00-15:55

オールジャンル
座長：岩崎未央，幡野敦

16:00-18:00

総会，授賞式
受賞講演，閉会式

14:00-15:55

オールジャンル
座長：木村弥生，長塩亮

13:15-14:00

ポスター
セッション
D

9:00-16:00

企業展示・ポスター掲示

Schedule

**8/8
Mon.**

9 10 11 12 13

Room A
(Room No. 63)

Room B
(Room No. 41)

Conference Room
(6F)

Poster/Corporate Exhibition
(Room No. 43 • 44, 4F)

12:15 12:30-13:30

Opening Ceremony
Plenary Lecture 1
Koichi Tanaka
Chair: Yoshio Kodera

**8/9
Tue.**

9 10 11 12 13

Room A
(Room No. 63)

Room B
(Room No. 41)

Conference Room
(6F)

Poster/Corporate Exhibition
(Room No. 43 • 44, 4F)

9:30-10:15

Keynote Lecture 1
Takeshi Tomonaga
Chair: Kazufumi Honda

10:15-11:25

Disease Proteomics
Chair: Tadashi Kondo, Kohei Tanaka

11:30-12:20

Luncheon 1
Thermo Fisher Scientific

9:30-11:25

Joint Session of Protein Science Society of Japan
and Japanese Proteomics Society
Chair: Hidetaka Kosako, Chojiro Kojima

11:30-12:20

Luncheon 2
Bruker Japan

11:30-12:25

Board Meeting

9:00-19:30

Poster / Corporate Exhibition
Poster Session A

12:30-13:15

**8/10
Wed.**

9 10 11 12 13

Room A
(Room No. 63)

Room B
(Room No. 41)

Conference Room
(6F)

Poster/Corporate Exhibition
(Room No. 43 • 44, 4F)

9:30-10:15

Keynote Lecture3
Jin Han
Chair: Tadashi Kondo

10:15-11:25

Functional Proteomics
Chair: Masaki Matsumoto, Shugo Adachi

11:30-12:20

Luncheon 3
AMR

9:30-11:25

Student Presentation Sessions
Chair: Keiji Kito, Toshihide Matsumoto

11:30-12:20

Luncheon 4
AB SCIEX

9:00-16:00

Poster / Corporate Exhibition
Poster Session C

12:30-13:15

**8/7
Sun.**

Online

20

21

22

23

24

21:30–24:00

Pre-Congress Webinar
Top-Down Proteomics
Chair: Nobuaki Takemori

14

15

16

17

18

19

13:30–15:30

Proteomics Educational Lectures

Chair: Naoshi Dohmae, Daisuke Higo

15:30–16:30

JPrOS
Activities

Chair: Sumio Ohtsuki, Shujiro Okuda

16:30–17:30

JPrOS2022
Symposium Introduction

16:30–17:30

JPrOS Vision
-Past, Present and Future-
Chair: Yasushi Ishihama

17:30–18:45

JPrOS
Historia

Chair: Norie Araki, Hisashi Hirano

17:30–18:30

Research Skill
Development
Chair: Mio Iwasaki, Yasushi Ishihama

18:30–19:30

Job Matching
Cafe
Chair: Mio Iwasaki

16:00–19:30

Poster / Corporate Exhibition

14

15

16

17

18

19

14:00–15:00

Plenary Lecture2
Akhilesh Pandey
Chair: Koji Ueda

15:45–17:05

Cutting-edge Technologies
for the Next-Generation Proteomics
Chair: Takeshi Masuda, Yusuke Kawashima

17:15–18:00

Keynote Lecture 2
Osamu Ohara
Chair: Yasushi Ishihama

18:05–19:30

Integration of Protein Translation
Research and Omics
Chair: Koshi Imam, Tatsuya Niwa

15:45–17:05

The New World of
Bioactive Peptides
Chair: Masaki Wakabayashi, Kazuki Sasaki

18:05–19:30

Database and
Data Analysis
Chair: Shin Kawano, Daiki Kobayashi

13:15–14:00 9:00–19:30

Poster Session B

Poster / Corporate Exhibition

14

15

16

17

18

19

14:00–15:55

All Genres of Proteomics
Chair: Mio Iwasaki, Atsushi Hatano

16:00–18:00

General Meeting, Award Ceremony
Award Lecture, Closing Ceremony

14:00–15:55

All Genres of Proteomics
Chair: Yayoi Kimura, Ryo Nagashio

13:15–14:00 9:00–16:00

Poster Session D

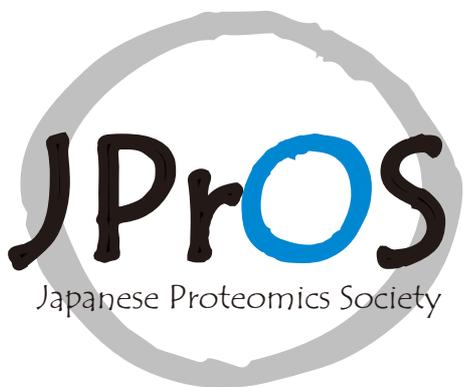
Poster / Corporate Exhibition

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUP0)

第20回特別企画

記念講演会 (第1日目ハイブリッド開催)

Pre-Congress Webinar (大会前日オンライン開催)



第20回記念講演会

2022年8月8日

12時30分～18時45分

A会場（ハイブリッド配信）

皆様のご支援の下、日本プロテオーム学会は設立から20年を迎えることができました。この間、プロテオーム解析技術ならびにその関連技術は大きく進歩し、様々な分野におけるプロテオミクスの重要性が高まってきています。そこで、本大会の第1日目に2002年にノーベル化学賞を受賞されました田中耕一先生をお迎えして第20回記念講演会を開催します。プロテオミクスの現状と今後の展望について広く興味のある方に伝えることを目的としております。タンパク質分析・プロテオミクスに興味をお持ちの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

12時30分～13時30分

特別講演 1

タンパク質解明の経緯とMSの社会貢献



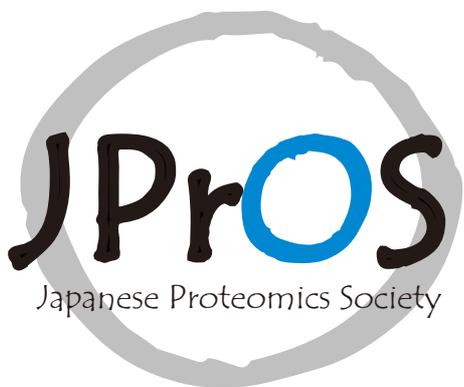
島津製作所 エグゼクティブ・リサーチ フェロー
田中耕一記念質量分析研究所 所長

田中 耕一 氏

Proteomeとは、例えばヒトHumanのタンパク質の総体であり、Mass Spectrometer: MSでも様々な手法を用いて「網羅的解析」が試みられ、ここ数10年の間に様々な進展がなされた。より多種類・微量のタンパク質検出が可能になり、タンパク質間の相互作用interactionを含めたメカニズム解明も大いに進んだ。

一方、タンパク質解析の重要な目的の1つである疾患の診断・早期発見は、網羅的解明の最終解答を待つ事が必要条件ではなく、様々な部分的解明や統計解析結果を基に、現在及び近い将来の治療を最優先すべき場合も多い。

本講演では、いまだ未解明の部分が多いAlzheimer病に対し、その原因と考えられているAmyloid β 群の血液中変化を分析する事で、超早期の病変の検出を試みた場合を具体的な1例として紹介する。さらに、その様な取り組みが結果としてProteomeの網羅的解析進展の参考となる可能性について述べる予定である。



第20回記念講演会

2022年8月8日

12時30分～18時45分

A会場（ハイブリッド配信）

13時30分～15時30分

プロテオミクス教育講演

最先端の高深度プロテオミクスからクライオ電子顕微鏡を用いた構造解析、質量分析計の開発などプロテオミクス、そしてライフサイエンス研究の今後をリードする最先端技術について5名の先生方にお話しいただきます。

15時30分～16時30分

JPrOS活動紹介

本学会が中心に進めているプロテオームデータベース jPOST、世界初のプロテオームデータ専用ジャーナル JPDM、さらには学会誌 Proteom Letters についてお話しし、我が国のプロテオミクスをけん引する本学会のアクティビティーをご紹介します。

16時30分～17時30分

JPrOS2022シンポジウム紹介

本大会で開催される10シンポジウムの概要を動画で紹介いたします。

17時30分～18時45分

JPrOSヒストリア

—日本プロテオーム学会20年の歩み—

日本プロテオーム学会の設立当初より本学会の発展にご尽力いただいた4名の先生方から本学会の成り立ち、発展、そして今後の展望についてお話しいただきます。

August 7, 2022
JPROS Pre-Congress Webinar

Top-Down Proteomics

JPROS 2022 Annual Meeting – 20th Anniversary Project –

at 9:30 PM JST / 2:30 PM CEST / 5:30 AM PDT



Top-down proteomics, which enables large-scale analysis of proteoforms, is rapidly attracting interest among researchers in various life science fields. In this webinar, world-leading researchers in top-down proteomics and proteoform research will introduce their latest findings and discuss how top-down proteomics will be promoted in Japan.

Time (JST)	Title	Speaker
21:30	Opening remarks	Nobuaki Takemori (Ehime University, Japan)
21:40	Protein terminome-centric proteoform analysis – is a xeel train ride really a good deal?	Yasushi Ishihama (Kyoto University, Japan)
22:05	Top-down proteomics: an (exciting) challenge for bioanalytical chemistry!	Andreas Tholey (Christian-Albrechts-Universität zu Kiel, Germany)
22:30	Identifying proteoforms from top-down MS/MS: is one search enough?	David Tabb (Pasteur Institute, France)
22:55	Dissecting unknown and heterogenous plant proteins by native top-down mass spectrometry	Mowei Zhou (Pacific Northwest National Laboratory, U.S.A.)
23:20	Applying native top-down mass spectrometry in structural biology and neurodegenerative disease research	Joseph A. Loo (University of California, Los Angeles, U.S.A.)

Registrar Now!

Online Registration: www.jproswebinar.com

This zoom webinar is free of charge and open all, including non-members!

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUP0)

プログラム
(タイトル一覧)

特別講演

8月8日(月曜日) Aug 8 (Mon)

12:30 ~ 13:30 A会場

1PL1

特別講演 1 / Plenary Lecture 1

タンパク質解明の経緯と MS の社会貢献

History of Protein Analysis and the Social Importance of MS

田中 耕一

(島津製作所)

座長 小寺 義男 (北里大学)

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

14:00 ~ 15:00 A会場

2PL2

特別講演 2 / Plenary Lecture 2

Mass Spectrometry as a Tool for Translational Research During the COVID Pandemic

Akhilesh Pandey

(Laboratory Medicine and Pathology, Mayo Clinic)

座長 植田 幸嗣 (がん研究会がんプレシジョン医療研究センター)

基調講演

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

9:30 ~ 10:15 A会場

2K1

基調講演 1 / Keynote Lecture 1

医薬基盤研究所でのバイオマーカー研究の近況と実用化を目指した取り組み
Progress of biomarker research at National Institute of Biomedical Innovation and
efforts aimed at practical use

朝長 毅

(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬標的プロテオミクスプロジェクト,
株式会社プロテオバイオロジクス)

座長 本田 一文 (日本医科大学)

17:15 ~ 18:00 A会場

2K2

基調講演 2 / Keynote Lecture 2

マルチオミックスの中心でプロテオミクスを叫ぼう！
Shout proteomics in the heart of the multi-omics

小原 収

(かずさ DNA 研究所)

座長 石濱 泰 (京都大学大学院薬学研究科)

基調講演

8 月 10 日 (水曜日) Aug 10 (Wed)

9:30 ~ 10:15 A 会場

3K3

基調講演 3 / Keynote Lecture 3

Molecular mechanism of exercise-induced cardiac adaptation

Jin Han

(Department of Physiology, College of Medicine, Cardiovascular and Metabolic
Disease Center, Inje University)

座長 近藤 格 (国立がん研究センター)

受賞講演

8月10日(水曜日) Aug 10 (Wed)

16:55 ~ 17:45 A会場

学会賞

座長 小寺 義男 北里大学理学部

- 3AW1-1** チロシン硫酸化研究から食品機能評価など農学分野へのプロテオミクスの応用
16:55 ~ 17:15 Functional elucidation of tyrosine sulfation, and application of proteomics to food function evaluation
- 榊原 陽一¹⁾
 - 1) 宮崎大学農学部応用生物科学科

座長 石濱 泰 京都大学大学院薬学研究科

- 3AW1-2** プロテオミクスによるがんバイオマーカーの探索と社会実装プラットフォーム
17:15 ~ 17:35 Proteomics-based Cancer Biomarker Discovery and Social Implementation Platform
- 本田 一文¹⁾
 - 1) 日本医科大学大学院医学研究科生体機能制御学分野

奨励賞

座長 石濱 泰 京都大学大学院薬学研究科

- 3AW1-3** 定量的ターミノミクスによるエクトドメインシェディングの大規模解析
17:35 ~ 17:45 Large-scale analysis of ectodomain shedding by quantitative terminomics
- 津曲 和哉¹⁾
 - 1) 理化学研究所生命医科学研究センター

特別企画

8月8日(月曜日) Aug 8 (Mon)

15:30 ~ 16:30 A会場

特別企画1 / Special Event 1

JPrOSの活動紹介

座長 大槻 純男(熊本大学大学院生命科学研究部)
奥田 修二郎(新潟大学)

1SE1-1 学会誌 Proteome Letters の紹介

15:30 ~ 15:50 Introduction of Proteome Letters, an official journal of JPrOS

○ 大槻 純男¹⁾

1) 熊本大学大学院生命科学研究部

1SE1-2 jPOST にまつわる五つの疑問

15:50 ~ 16:00 There're five mysteries about jPOST

○ 吉沢 明康¹⁾

1) 富山国際大学

1SE1-3 プロテオミクスを学びながらお金も貰えたバイト体験談

16:00 ~ 16:10 My experience of part-time job to earn money while studying proteomics

○ 白石 千瑛¹⁾

1) 九州大学生医研分子医科学分野

1SE1-4 Journal of Proteome Data and Methods (JPDM) , Data Descriptor 論

16:10 ~ 16:30 文投稿のススメ

Recommendation for submitting to Journal of Proteome Data and Methods (JPDM) Data Descriptor.

○ 若林 真樹¹⁾

1) 国立循環器病研究センター

特別企画

8月8日(月曜日) Aug 8 (Mon)

17:30 ~ 18:45 A会場

特別企画 2 / Special Event 2

JPrOS ヒストリア

座長 荒木 令江 (熊本大学生命科学研究部(医))

平野 久 (群馬大学生体調節研究所)

1SE2-1 わが国のプロテオーム研究の発展に必要なこと

17:33 ~ 17:48 What is required for the development of proteome research in Japan?

○ 平野 久¹⁾

1) 群馬大学生体調節研究所

1SE2-2 ヒトプロテオミクスの将来-診断から予防へ- ~JHUPO からヒトプロテオ

17:48 ~ 18:03 ーム国際共同研究へ~

Future of human proteomics for preventive medicine -JHUPO for international collaborations of proteomic societies-

○ 中村 和行¹⁾

1) 山口大学名誉教授・徳山医師会病院顧問兼副院長

1SE2-3 ヒトプロテオーム機構から日本プロテオミクス学会へ

18:03 ~ 18:17 From Human Proteome Organization to Japan Proteomics Society

○ 山本 格^{1,2)}

1) 新潟大学、2) 信楽園病院

1SE2-4 JHUPO への期待 : Human Disease Glycomics/Proteome Initiative

18:17 ~ 18:31 (HGPI)で学んだこと

Expectations for JHUPO: Lessons from the Human Disease Glycomics/Proteome Initiative (HGPI)

○ 谷口 直之¹⁾

1) 大阪国際がんセンター研究所

特別企画

8月8日(月曜日) Aug 8 (Mon)

13:30 ~ 15:30 A会場

教育講演 / Educational Lecture

プロテオミクス教育講演

座長 堂前 直 (理研 CSRS)

肥後 大輔 (サーモフィッシャーサイエンティフィック)

1E-1 高深度プロテオーム解析のための試料調製と LC-MS/MS 測定について

13:30 ~ 13:54 A sample preparation method and LC-MS/MS method for deep proteomics

○ 川島 祐介¹⁾

1) かずさ DNA 研究所

1E-2 脂質多様性の生物学とリピドームアトラス

13:54 ~ 14:18 Biology of LipoQuality and Lipidome Atlas

○ 有田 誠^{1,2,3)}

1) 慶應義塾大学薬学部代謝生理化学講座、2) 理化学研究所生命医科学研究センターメタボローム研究チーム、3) 横浜市立大学大学院生命医科学研究科代謝エピゲノム科学研究室

1E-3 ロボティックバイオロジー基礎講座

14:18 ~ 14:42 Robotic Biology 101

○ 神田 元紀¹⁾

1) 理化学研究所 生命機能科学研究センター

1E-4 クライオ電子顕微鏡を用いた光合成色素タンパク質超分子複合体の立体構

14:42 ~ 15:06 造解析

Structures of photosynthetic pigment-protein supercomplexes by cryo-EM single-particle analysis

○ 長尾 遼¹⁾

1) 岡山大学・異分野基礎科学研究所

1E-5 質量分析装置の開発について ～マルチターン飛行時間型質量分析計の開発

15:06 ～ 15:30 を例に～

How to develop a mass spectrometer

○ 豊田 岐聡¹⁾

1) 大阪大学

ワークショップ

8月8日(月曜日) Aug 8 (Mon)

16:30 ~ 17:30 B会場

ワークショップ1 / Workshop 1

JPrOS Vision

座長 石濱 泰 (京都大学大学院薬学研究科)

17:30 ~ 18:30 B会場

ワークショップ2 / Workshop 2

スキルアップ

座長 岩崎 未央 (京都大学 iPS 細胞研究所)

石濱 泰 (京都大学大学院薬学研究科)

1WS2-1 グラントの獲得戦略

17:33 ~ 17:50 How to get research grants

○ 今見 考志¹⁾

1) 理化学研究所

1WS2-2 コラボ研究の進め方

17:50 ~ 18:10 How to collaborate well

○ 松本 雅記¹⁾

1) 新潟大学

1WS2-3 論文の執筆方法について

18:10 ~ 18:30 How to write your article well

○ 石濱 泰¹⁾

1) 京都大学

18:30 ~ 19:30 B会場

ワークショップ3 / Workshop 3

ジョブマッチングカフェ

座長 岩崎 未央 (京都大学 iPS 細胞研究所)

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

10:15 ~ 11:25 A会場

シンポジウム 1 / Symposium 1

疾患プロテオミクス：病態の理解から治療法の開発へ

座長 近藤 格 (国立がん研究センター)

田中 恒平 (田辺三菱製薬)

2S1-1 リン酸化プロテオミクスと公共薬剤感受性データの統合解析による薬剤耐性大腸がん肝転移巣の新規創薬探索
10:17 ~ 10:34

Integrated pharmaco-proteomics identified novel therapeutic opportunities for chemotherapy resistant colorectal cancer

○ 軍司 大悟^{1,2)}、阿部 雄一³⁾、長山 聡⁴⁾、坂井 義治⁵⁾、小濱 和貴²⁾、朝長 毅¹⁾、足立 淳¹⁾

1) 医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬標的プロテオミクスプロジェクト、2) 京都大学 大学院 医学研究科 消化管外科、3) 愛知県がんセンター研究所 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野、4) 宇治徳洲会病院 消化器外科、5) 大阪赤十字病院 消化器外科

2S1-2 非小細胞肺癌生検サンプルの網羅的キナーゼ活性解析を用いたの予後予測バイオマーカーの探索
10:34 ~ 10:51

Identification of prognostic biomarkers using comprehensive kinase activity assay in non-small cell lung cancer biopsy samples

○ 野口 玲¹⁾、吉村 彰紘²⁾、内野 順治^{2,3)}、竹田 隆之⁴⁾、千原 佑介⁵⁾、大田 隆代⁶⁾、平沼 修⁷⁾、行徳 宏⁸⁾、徳田 深作²⁾、岩破 將博²⁾、山田 忠明²⁾、高山 浩一²⁾、近藤 格¹⁾

1) 国立がん研究センター希少がん研究分野、2) 京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学、3) 磐南中央病院、4) 京都第二赤十字病院、5) 宇治徳洲会病院、6) 和泉市立総合医療センター、7) 市立大津市民病院、8) 長崎大学病院

2S1-3 がん高精度医療の更なる改善に向けた逆相タンパクアレイ技術基盤の有用

10:51 ~ 11:08 性

Applicability of reverse phase protein array technology for further advancement of precision oncology

○ 増田 万里¹⁾、中川 莉杏¹⁾、近藤 格¹⁾

1) 国立がん研究センター・プロテオーム解析部門

2S1-4 免疫グロブリン結合タンパク質の高深度プロテオーム解析と、新規がんバ

11:08 ~ 11:25 イオマーカー探索研究への応用

Development of an in-depth pipeline for immunoglobulin-bound proteins for cancer biomarker discovery

○ 阿部 雄一¹⁾、磯村 久徳¹⁾、田口 歩^{1,2)}

1) 愛知県がんセンター, 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野、

2) 名古屋大学大学院医学系研究科, 先端がん診断学分野

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

9:30 ~ 11:25 B会場

シンポジウム 2 / Symposium 2

日本蛋白質科学会・日本プロテオーム学会合同セッション

座長 小迫 英尊 (徳島大学先端酵素学研究所)
児嶋 長次郎 (横浜国立大学大学院工学研究院)

2S2-1 Protein Correlation Profiling による細胞内巨大タンパク質複合体の解析

9:30 ~ 9:49 Analysis of very large cellular protein complexes using size-exclusion chromatography and protein correlation profiling

○ 吉川 治孝¹⁾、小迫 英尊¹⁾

1) 徳島大学 先端酵素学研究所 藤井節郎記念医科学センター

2S2-2 抗体と抗原および Fc 受容体の相互作用の速度論的および構造生物学的解析

9:49 ~ 10:08 Kinetic and structural analysis of the interactions among antigens, immunoglobulin G and Fc gamma receptor III

○ 山口 祐希¹⁾、若泉 なつみ¹⁾、入佐 充音¹⁾、丸野 孝浩¹⁾、嶋田 麻里¹⁾、新谷 晃也¹⁾、西海 遥夏¹⁾、與語 理那^{2,3,4)}、谷中 冴子^{2,3,4)}、肥後 大輔⁵⁾、鳥巢 哲生¹⁾、加藤 晃一^{2,3,4)}、内山 進^{1,2)}

1) 大阪大学大学院工学研究科、2) 生命創成探究センター、3) 分子科学研究所、4) 名古屋市立大学大学院薬学研究科、5) サーモフィッシュャーサイエンティフィック

2S2-3(P-40D) Glyco-RIDGE 法によるマウス組織糖タンパク質の部位特異的 N 型糖鎖修飾

10:08 ~ 10:27 の大規模分析

Large-scale identification of site-specific N-glycosylations of mouse tissue glycoproteins using a Glyco-RIDGE method

○ 岡谷 千晶¹⁾、富岡 あづさ¹⁾、助川 昌子¹⁾、藤田 弥佳¹⁾、富永 大介¹⁾、坂上 弘明¹⁾、久野 敦¹⁾、梶 裕之^{1,2)}

1) 産業技術総合研究所、2) 名古屋大学

2S2-4 構造プロテオミクスの深化 –in vitro から in cell in action へ–

10:27 ~ 10:46 Deepening Structural Proteomics - from in vitro to in cell in action -

○ 児嶋 長次郎¹⁾

1) 横浜国立大学

2S2-5 翻訳後修飾による細胞内液-液相分離制御機能の解明

10:46 ~ 11:05 How post-translational modifications regulate liquid-liquid phase separation.

山崎 啓也¹⁾、高木 昌俊²⁾、小迫 英尊³⁾、平野 達也⁴⁾、○ 吉村 成弘¹⁾

1) 京都大学大学院生命科学研究科、2) 理化学研究所細胞核機能研究室、3) 徳島大学先端酵素学研究所、4) 理化学研究所染色体ダイナミクス研究室

2S2-6 タンパク質立体構造解析と質量分析の融合研究

11:05 ~ 11:24 Integrated research of structural biology and mass spectrometry

○ 田中 良和¹⁾

1) 東北大学大学院 生命科学研究科

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

15:45 ~ 17:05 A会場

シンポジウム 3 / Symposium 3

次のプロテオミクスを担う最先端技術

座長 増田 豪 (熊本大学大学院生命科学研究部)

川島 祐介 (かずさDNA研究所)

2S3-1(P-49A) タンパク質限定標識法による構造プロテオミクスの高感度化

15:45 ~ 16:05 Improving the Sensitivity in Structural Proteomics based on Protein Foot-printing

○ 小形 公亮¹⁾、前田 朝登¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科

2S3-2(P-01A) Quadrupole-Orbitrap MS を用いたハイスループットプロテオーム解析法

16:05 ~ 16:25 の構築

Development of Ultra-Fast Proteomics System using Quadrupole-Orbitrap MS

○ 石川 将己¹⁾、紺野 亮¹⁾、中島 大輔¹⁾、後藤 真里²⁾、深澤 桂子²⁾、佐藤 裕範¹⁾、中村 蓮¹⁾、小原 収¹⁾、川島 祐介¹⁾

1) かずさDNA研究所、2) お茶の水女子大

2S3-3 ゲルベースの高分解能サンプル前分画による高深度トップダウンプロテオ

16:25 ~ 16:45 ミクス

In-Depth Top-Down Proteomics via Gel-Based High-Resolution Sample Pre-Fractionation

○ 武森 信暁¹⁾

1) 愛媛大学

2S3-4(P-02B) 微量試料用前処理法である油中液滴法の開発と 1 細胞プロテオミクスへの
16:45 ~ 17:05 応用

Water droplet-in-oil digestion method toward single-cell proteomics

○ 増田 豪^{1,2)}、山廣 万貴²⁾、伊藤 慎悟^{1,2)}、大槻 純男^{1,2)}

1) 熊本大学大学院生命科学研究部、2) 熊本大学薬学部

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

15:45 ~ 17:05 B会場

シンポジウム 4 / Symposium 4

生理活性ペプチドが拓く新たな世界

座長 若林 真樹 (国立循環器病研究センター)

佐々木 一樹 (佐々木研究所)

2S4-1 血漿ペプチドミクスが開拓する新規生理活性ペプチド同定研究の新展開

15:45 ~ 16:10 Identification of novel bioactive peptides utilizing plasma peptidomics

○ 七里 眞義¹⁾、小寺 義男²⁾

1) 国家公務員共済組合連合会 東京共済病院、2) 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター

2S4-2 新たな生理活性ペプチドを求めて：ニューロメジン S とその関連ペプチド

16:10 ~ 16:35 の発見

In search of novel bioactive peptides: the discovery of neuromedin S and its related peptides

○ 森 健二¹⁾

1) 国立循環器病研究センター研究所心臓生理機能部

2S4-3 生理活性ペプチド発見のためのペプチドミクス

16:35 ~ 16:50 Peptidomics for exploring bioactive peptides

○ 佐々木 一樹¹⁾

1) 公益財団法人佐々木研究所・ペプチドミクス研究部

2S4-4 二枚貝の産卵誘発ペプチドの発見と水産業への応用

16:50 ~ 17:05 Use of a novel peptide identified from a marine bivalve mollusk for fisheries industry

○ 松本 才絵¹⁾、船山 翔平¹⁾、小寺 義男^{2,3)}

1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所、2) 北里大学理学部 物理学科 物性物理学研究室、3) 北里大学理学部附属 疾患プロテオミクスセンター

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

18:05 ~ 19:30 A会場

シンポジウム 5 / Symposium 5

タンパク質翻訳研究とオミクスの融合

座長 今見 考志 (理化学研究所生命医科学研究センター)

丹羽 達也 (東京工業大学科学技術創成研究院)

2S5-1 ヒト由来のプロテオームとトランスクリプトームのオープンデータを活用
18:05 ~ 18:19 したポリシストロニックな真核型 mRNA の探索とその翻訳制御についての
考察

Proteogenomic data-driven discovery of polycistronic mRNAs
harboring cis-regulatory overlapping genes in humans

○ 野村 勇太^{1,2)}

1) 埼玉大学大学院 理工学研究科、2) 理化学研究所 環境資源科学研究
センター

2S5-2(P-45A) タンパク質末端解析データを用いたノンカノニカルタンパク質の同定
18:19 ~ 18:33 Identification of non-canonical proteins by protein terminomics

○ 西田 紘士¹⁾、今見 考志^{1,2)}、高地 雄太³⁾、石濱 泰^{1,4)}

1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 理化学研究所生命医科学研究センタ
ー、3) 東京医科歯科大学 難治疾患研究所、4) 医薬基盤・健康・栄養研究
所

2S5-3(P-03C) 翻訳開始因子 eIF4A1 は LARP1 による翻訳抑制を促進する
18:33 ~ 18:47 eIF4A1 facilitates LARP1-mediated translation repression

○ 七野 悠一¹⁾、水戸 麻理¹⁾、柏木 一宏²⁾、高橋 真梨²⁾、伊藤 拓宏²⁾、
Ingolia Nicholas³⁾、岩崎 信太郎^{1,4)}

1) 理研・開拓研究本部、2) 理研・生命機能科学研究センター、3) カリ
フォルニア大学バークレー校、4) 東大・院新領域・メディカル情報生命

2S5-4(P-59C) Myo-ribosome は翻訳伸長ダイナミクスの調節により心機能に必須の役割を果たす
18:47 ~ 19:01

Myo-ribosomes determine translation elongation dynamics required for cardiac function

○ 白石 千瑛¹⁾、松本 有樹修¹⁾、市原 知哉¹⁾、幡野 敦²⁾、松本 雅記²⁾、中山 敬一¹⁾

1) 九州大学生医研分子医科学分野、2) 新潟大学医歯学系システム生化学分野

2S5-5 無細胞ゲノム転写翻訳系の再構成と合成産物のオミクス解析
19:01 ~ 19:15 In vitro reconstitution of the Escherichia coli genome transcription and translation system and its omics analysis

○ 松井 ゆきの¹⁾、丹羽 達也²⁾、田口 英樹²⁾、土居 信英¹⁾、藤原 慶¹⁾

1) 慶大・理工、2) 東工大・細胞センター

2S5-6 細胞内の翻訳反応のスナップショットを得るための網羅的ペプチジル tRNA 検出法の構築
19:15 ~ 19:30

A method to enrich polypeptidyl-tRNAs to capture snapshots of translation in the cell

山川 絢子¹⁾、○ 丹羽 達也^{1,2)}、茶谷 悠平²⁾、田口 英樹^{1,2)}

1) 東工大・生命理工、2) 東工大・研究院・細胞センター

シンポジウム

8月9日(火曜日) Aug 9 (Tue)

18:05 ~ 19:30 B会場

シンポジウム 6 / Symposium 6

データベース・データ解析

座長 河野 信 (富山国際大学)

小林 大樹 (新潟大学)

2S6-1 MAGE-TAB のメタボロミクスデータへの展開と MetaboBank での利用

18:05 ~ 18:30 MAGE-TAB design for metabolomics data in MetaboBank

○ 児玉 悠一¹⁾、時松 敏明¹⁾、福田 亜沙美¹⁾、藤澤 貴智¹⁾、長崎 英樹²⁾、荒 武^{2,3)}、福島 敦史^{4,5)}、有田 正規^{1,5)}

1) 国立遺伝学研究所、2) かずさ DNA 研究所、3) 京都大学、4) 京都府立大学、5) 理化学研究所

2S6-2 ゲノムデータの共有

18:30 ~ 18:55 Data sharing for human genomic data

○ 川嶋 実苗¹⁾

1) 科学技術振興機構

2S6-3 バイオバンクの構築とヒトデータの利活用促進

18:55 ~ 19:20 Establishment of a biobank and promotion of the utilization of human data

○ 荻島 創一¹⁾

1) 東北大学東北メディカルメガバンク機構

2S6-4(P-82B) 糖尿病患者の尿バイオマーカー探索のための定量プロテオミクス

19:20 ~ 19:30 Quantitative Proteomics of Urine to Discover Biomarkers for Diabetes Patients

○ 柳田 憲吾¹⁾、山本 恵子¹⁾、Elguoshy Amr¹⁾、内許 智博¹⁾、山本 格^{1,2)}

1) 新潟大学生体液バイオマーカーセンター、2) 信楽園病院検査科

シンポジウム

8月10日(水曜日) Aug 10 (Wed)

10:15 ~ 11:25 A会場

シンポジウム7 / Symposium 7

機能プロテオミクス

座長 松本 雅記 (新潟大学)
足達 俊吾 (産業技術総合研究所)

3S7-1(P-04D) 高密度・ハイスループットプロテオミクスによるタンパク質動態研究

10:15 ~ 10:20 Research on protein dynamics using high-density/high-throughput proteomics

○ 松本 雅記¹⁾

1) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 オミクス生物学

3S7-2 TurboID 法による HSF1 転写複合体の解析

10:20 ~ 10:35 Analysis of HSF1 transcription complex by TurboID

○ 瀧井 良祐¹⁾、松本 雅記²⁾、中井 彰¹⁾

1) 山口大学大学院医学系研究科、2) 新潟大学大学院医歯学総合研究科

3S7-3(P-83C) 生体内少数分子を標的とした分子間相互作用ネットワークの探索

10:35 ~ 10:45 Exploration of Molecular Interaction Networks Targeting a Small Number of Molecules

○ 矢崎 潤史¹⁾、川島 祐介²⁾、岩瀬 哲³⁾、小林 敦夫¹⁾、山梨 貴士^{1,4,5)}、杉本 慶子³⁾、韓 龍雲¹⁾、今見 考志¹⁾、小原 収²⁾、清田 純^{1,4,5)}

1) 理化学研究所 IMS、2) かずさ DNA 研究所、3) 理化学研究所 CSRS、4) 理化学研究所 ADSP、5) 筑波大学グローバル教育院

3S7-4 最先端プロテオミクスによって見えてきたプロテアソーム経路の基質選別

10:45 ~ 11:00 メカニズム

Understanding the ubiquitin-proteasome system by advanced proteomics

○ 佐伯 泰¹⁾、土屋 光¹⁾、遠藤 彬則¹⁾

1) 東京都医学総合研究所

3S7-5(P-05A) ヒトキノーム活性計測および予測法の開発

11:00 ~ 11:15 Development of the Method for Profiling Human Kinome Activity

○ 杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科

3S7-6(P-06B) 機能プロテオミクスのためのタンパク質複合体解析技術

11:15 ~ 11:25 Protein complex analysis method for functional proteomics

○ 足達 俊吾^{1,1)}、夏目 徹^{1,1)}

1) 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門、2) 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門

シンポジウム

8月10日(水曜日) Aug 10 (Wed)

9:30 ~ 11:25 B会場

シンポジウム 8 / Symposium 8

学生発表セッション

座長 紀藤 圭治 (明治大学)

松本 俊秀 (北里大学)

3S8-1(P-75C) ヒトグリオーマ悪性形質獲得機構関連因子の探索

9:32 ~ 9:46 Identification of proteins associated with malignant transformation mechanisms in glioblastoma.

○ 渡邊 莉奈^{1,2)}、井野 洋子¹⁾、西 真由子²⁾、秋山 知子¹⁾、森山 佳谷乃¹⁾、中居 佑介¹⁾、梁 明秀^{1,2)}、木村 弥生¹⁾

1) 横浜市立大学先端医科学研究センター、2) 横浜市立大学大学院医学研究科微生物学

3S8-2(P-61A) Tandem Mass Tag を用いたタンデム質量分析法による膵臓癌の新規診断

9:46 ~ 10:00 マーカーの解析

Search for novel diagnostic markers of pancreatic ductal adenocarcinoma using Tandem Mass Tag and proteome analysis

○ 相馬 穂花¹⁾、佐藤 里奈²⁾、高野 重紹³⁾、大塚 将之³⁾、曾川 一幸¹⁾

1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) けいゆう病院、3) 千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学

3S8-3(P-85A) 最適化グローバルプロテオミクスによる胆管がん由来幹細胞の性状解析

10:00 ~ 10:14 Characterization of cholangiocarcinoma stem-like cells by optimized global proteomics

○ 横田 太郎^{1,2)}、パナワン オラサ^{1,3)}、チーシャン チャン¹⁾、シルシリヴァント アチト³⁾、中村 雅史²⁾、荒木 令江¹⁾

1) 熊本大学 生命科学研究部 腫瘍医学、2) 九州大学大学院 医学研究院 臨床腫瘍外科、3) コンケン大学 医学部 生化学

3S8-4(P-79C) レナリドミド耐性多発性骨髄腫細胞株における CSN5 の分解調整因子の探索
10:14 ~ 10:28

Identification of regulatory proteins of CSN5 degradation in lenalidomide-resistant multiple myeloma cell lines

○ 山本 拓実¹⁾、増田 豪^{1,2)}、伊藤 慎悟^{1,2)}、大槻 純男^{1,2)}

1) 熊本大学大学院薬学教育部、2) 熊本大学大学院生命科学研究部

3S8-5(P-72D) DIA-MS を用いた定量プロテオミクスによるヒト iPS 細胞の分化制御因子の探索
10:28 ~ 10:42

DIA-MS based quantitative proteomics to search for regulators of hiPSC differentiation

○ 浦澤 貴哉¹⁾、小泉 匠¹⁾、木村 一雅¹⁾、太田 悠葵¹⁾、川崎 ナナ¹⁾

1) 横浜市立大学大学院 生命医科学研究科

3S8-6(P-42B) システイン S-アミノエチル化を用いたタンパク質消化法の開発
10:42 ~ 10:56 Protein Digestion Using Cysteine S-Aminoethylation for Deep Proteomics

○ 中井 郁那¹⁾、富岡 亮太¹⁾、小形 公亮¹⁾、金尾 英佑^{1,2)}、石濱 泰^{1,2)}

1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 医薬基盤・健康・栄養研究所

3S8-7(P-33A) ターゲットプロテオミクスによる高速菌叢プロファイリング法の開発
10:56 ~ 11:10 Toward high-throughput taxonomy profiling by targeted proteomics

○ 工藤 拓実¹⁾、山下 蓮太郎¹⁾、Pei-Shan Wu¹⁾、三浦 信明²⁾、奥田 修二郎^{2,3)}、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 新潟大学大学院医歯学総合研究科、
3) 新潟大学医学部メディカル AI センター

3S8-8(P-20D) ショットガンプロテオミクスにおけるマススペクトログラム階層クラスタリングによるタンパク質同定
11:10 ~ 11:24

Protein Identification by Hierarchical Clustering of Mass Spectrograms in Shotgun Proteomics

○ 足田 拓也¹⁾、木部 航希¹⁾、吉井 和佳²⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 京都大学大学院情報学研究科

シンポジウム

8 月 10 日 (水曜日) Aug 10 (Wed)

14:00 ~ 15:55 A 会場

シンポジウム 9 / Symposium 9

オールジャンル

座長 岩崎 未央 (京都大学 iPS 細胞研究所)
幡野敦 (新潟大学)

3S9-1 細胞溶解が不要なトリプシン消化法の開発

14:00 ~ 14:19 Development of trypsin digestion protocol without cell lysis.

○ 幡野 敦¹⁾、松本 雅記¹⁾

1) 新潟大学大学院医歯学総合研究科

3S9-2(P-13A) Identification of the O-GalNAc glycoproteome related to the GALNT5

14:19 ~ 14:38 expression in cholangiocarcinoma

○ Marutpong Detarya¹⁾, Daiki Kobayashi¹⁾, Atit Silsirivanit²⁾,
Kanlayanee Sawanyawisuth²⁾, Sopit Wongkham²⁾, Chaisiri
Wongkham²⁾, Norie Araki¹⁾

1) Department of Tumor Genetics and Biology, Graduate School of
Medical Sciences, Kumamoto University, Kumamoto 860-8556,
Japan , 2) Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Khon
Kaen University, Khon Kaen 40002, Thailand

3S9-3(P-84D) 子宮内膜癌における PTEN 過剰発現細胞が示す形態・分子機構の改変

14:38 ~ 14:57 Modified morphological and molecular mechanisms by PTEN
overexpression in endometrial carcinoma

○ 横井 愛香¹⁾、南 麻里奈¹⁾、松本 俊英²⁾、小栗 康子¹⁾、橋村 美紀¹⁾、
長谷川 嘉則³⁾、三枝 信¹⁾

1) 北里大学・医学部・病理学、2) 北里大学・医療衛生学部・病理学、
3) 公財・かずさ DNA 研究所

3S9-4(P-30B) Surfaceome 解析を基盤とした卵巣癌細胞表面タンパク質シグネチャーの
14:57 ~ 15:16 同定

Surfaceome analysis revealed novel biomarker signature for ovarian cancer

○ 小林 信¹⁾、杉本 幸太郎¹⁾、宮川 諒也¹⁾、瓜生 開¹⁾、遠藤 雄大²⁾、小林 靖幸³⁾、田口 歩⁴⁾、千葉 英樹¹⁾

1) 福島県立医科大学医学部基礎病理学講座、2) 福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座、3) 福島県立医科大学医学部病理病態診断学、4) 愛知県立がんセンター分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

3S9-5(P-21A) 肺腺がん細胞の遊走能獲得における LRRK2 の機能解析
15:16 ~ 15:35 Functional analysis of LRRK2 in the migration ability of lung adenocarcinoma

○ 今井 基貴^{1,2)}、川上 文貴^{2,3)}、川島 麗^{2,3)}、朽津 有紀^{1,2)}、西原 奈菜枝⁴⁾、田村 慶介⁴⁾、一戸 昌明⁵⁾、村雲 芳樹⁵⁾、長塩 亮^{1,2)}

1) 北里大・医療・臨床検査、2) 北里大・医療・再生医療・細胞デザイン、3) 北里大・医療・生化、4) 北里大・院・応用腫瘍病理、5) 北里大・医・病理

3S9-6(P-74B) 胎便プロテオーム解析を用いた新生児の消化管疾患に対する新たな治療戦略創出への挑戦
15:35 ~ 15:54

Exploratory research of new clinical strategies for gastrointestinal diseases in neonate using deep proteome analysis of meconium

○ 渡辺 栄一郎^{1,2)}、川島 祐介³⁾、紺野 亮³⁾、設楽 佳彦⁴⁾、柿原 知²⁾、高橋 尚人⁴⁾、川上 英良⁵⁾、小原 収³⁾、藤代 準²⁾

1) 国立成育医療研究センター 小児外科系専門診療部 外科、2) 東京大学医学部附属病院 小児外科、3) かずさ DNA 研究所、4) 東京大学医学部附属病院 小児科、5) 理化学研究所 先端データサイエンスプロジェクト 医療データ数理推論チーム

シンポジウム

8月10日(水曜日) Aug 10 (Wed)

14:00 ~ 15:55 B会場

シンポジウム 10 / Symposium 10

オールジャンル

座長 木村 弥生 (横浜市立大学・先端医科学研究センター)
長塩 亮 (北里大学・医療衛生学部)

3S10-1 新規の in situ ビオチン標識法を用いた Cajal body 構成因子のマルチオミクス解析
14:00 ~ 14:30

The multi-omics analysis of the components of Cajal bodies using antibody-based in situ biotinylation technique.

野口 慶介¹⁾、鈴木 秀文¹⁾、阿部 竜太¹⁾、堀内 恵子¹⁾、秋山 智彦¹⁾、池 陽子¹⁾、井野 洋子²⁾、木村 弥生²⁾、梁 明秀^{3,2)}、山口 雄輝⁴⁾、○高橋 秀尚¹⁾

1) 横浜市立大学 大学院医学研究科 分子生物学分野、2) 横浜市立大学 大学院医学研究科 先端医科学研究センター、3) 横浜市立大学 大学院医学研究科 微生物学分野、4) 東京工業大学 生命理工学院

3S10-2(P-14B) 転写因子 TEAD の新規翻訳後修飾リジン長鎖アシル化

14:30 ~ 14:50 Lysine long-chain fatty acylation as novel posttranslational modification of TEADs

鈴木 健裕¹⁾、則次 恒太²⁾、伊藤 昭博²⁾、○堂前 直¹⁾

1) 理化学研究所環境資源科学研究センター、2) 東京薬科大学 生命科学部

3S10-3(P-37A) 微分型イオン移動度質量分析によるがん免疫医療のための免疫ペプチド

14:50 ~ 15:10 Δの探索

Exploring the immunopeptidome by differential ion mobility mass spectrometry for cancer immunotherapy

○峯岸 ゆり子¹⁾、清谷 一馬¹⁾、長山 聡^{1,2)}、植田 幸嗣¹⁾

1) 公益財団法人がん研究会、2) 宇治徳洲会病院

3S10-4(P-47C) 土器付着物を用いたプロテオミクスによる古代人の食生活の復元

15:10 ~ 15:30 Paleoproteomics of food crusts on pottery excavated from east asia

○ 西内 巧、庄田 慎矢

1) 金沢大学、2) 奈良文化財研究所

3S10-5(P-10B) SOMAscan を用いた薬剤性間質性肺炎の新規バイオマーカー探索と有用性

15:30 ~ 15:50 検証

SOMAscan-based biomarker discovery in drug-induced interstitial lung disease and validation of its clinical significance.

○ 荒川 憲昭¹⁾、弦間 昭彦²⁾、巽 浩一郎³⁾、服部 登⁴⁾、大野 泰雄⁵⁾、斎藤 嘉朗¹⁾、花岡 正幸⁶⁾

1) 国立医薬品食品衛生研究所、2) 日本医科大学、3) 千葉大学、4) 広島大学、5) 木原記念横浜生命科学振興財団、6) 信州大学

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPPO)

ランチオンセミナー

8月9日 (11:30~12:20)

L-1 (A会場) : サーマフィッシャーサイエンティフィック

L-2 (B会場) : ブルカージャパン

8月10日 (11:30~12:20)

L-3 (A会場) : エーエムアール

L-4 (B会場) : エービー・サイエックス

[L-1]

プロテオミクス研究を加速させる新技術 - 前処理、分離、データ解析 -

○ 渡邊 史生¹⁾

1) サーマフィッシャーサイエンティフィック株式会社

Drive the Workflow for Proteomics - from Sample Prep, via Separation, to Data Processing -

○ Shio Watanabe¹⁾

1) Thermo Fisher Scientific K.K

Short Abstract: We introduce our new products which can accelerate entire proteomics workflow including sample preparation, peptide separation, data processing.

Keywords: Orbitrap, Sample Preparation, Column Separation, Proteome Discoverer

プロテオミクス研究を対象とした分析・解析技術は日進月歩で発展を続けており、一度の測定において、より多くの種類のタンパク質を同定・定量したいという従来からのニーズに加えて、近年では多数の検体をより迅速に処理できるハイスループットな分析にも注目が集まっている。

Thermo Fisher Scientific は、2022 年 ASMS で自動サンプル前処理装置「Thermo Scientific™ AccelerOme™ Automated Sample Preparation Platform」をローンチしました。還元アルキル化、酵素消化、クリーンアップまでの一般的な前処理に加えて、TMT 標識の自動処理にも対応し、大規模な定量プロテオミクスを含めてサポートします。また、新たにデザインされた「Thermo Scientific™ μPAC™ HPLC Columns」は、円柱状の固定相を規則正しく配置することで均一な分離を可能にした革新的なカラムであり、長期に亘る分析でも高い再現性と分離性能を提供します。更に、Thermo Scientific™ Proteome Discoverer™ 3.0 で新たに搭載された「CHIMERYS™」は、人工知能を利用した高度な予測プログラムにより、従来のソフトウェアでは対応の難しかった複数のペプチドが混合したキメラスペクトルを解読し、短時間の分析でさまざまなペプチドが共溶出している複雑なデータに対しても、より正確なタンパク質・ペプチドの同定を可能にします。

本発表では、プロテオミクス研究におけるサンプル前処理から、ペプチド分離、データ解析までに至るワークフローを加速させる新たな分析技術についてご紹介します。

[L-2]

最新の timsTOF シリーズによる 4D-プロテオミクスソリューションのご紹介

○ 坂本 太郎¹⁾

1) ブルカージャパン株式会社

4D-Proteomics Solution with the latest timsTOF series

○ Sakamoto Taro¹⁾

1) Bruker Japan K.K.

Short Abstract: timsTOF is the QTOF mass spectrometer equipped with TIMS device which enables separation by ion mobility in addition to retention time and m/z. PASEF is a measurement method that satisfies high resolution, high sensitivity, and high-speed MS/MS, which are important in shotgun proteomics. In this seminar, we will present the latest timsTOF series and 4D-Proteomics solutions and related application software.

Keywords: TIMS, 4D-Proteomics, PASEF, PaSER

timsTOF は、QTOF 型質量分析計の前段にイオンモビリティデバイスである Trapped Ion Mobility Spectrometry (TIMS) を配置しており、保持時間ならびに m/z による分離に加え、イオンモビリティでの分離が可能となります。TIMS の特徴を最大限に活かす MS/MS 測定である Parallel Accumulation SErrial Fragmentation (PASEF) は、ショットガンプロテオミクス測定において重要である高分解能・高感度・高速 MS/MS をすべて満足させる測定手法です。その適応範囲は広く、DDA 解析のみならず DIA や PRM 解析にも適応可能です。また、測定後のデータ処理においても、GPU を活用したリアルタイムデータベース検索プラットフォームである Parallel Database Search Engine in Real-Time (PaSER) を用いることで、測定が終了すると同時にデータベース検索結果を得ることが可能となります。

本セミナーでは、High capacity TIMS cartridge と 14bit digitizer により広いダイナミックレンジと定量性が向上した最新の timsTOF HT を紹介させて頂くとともに、4D-プロテオミクス解析の測定手法とその利点、対応するソフトウェアを含めた具体的なソリューションについてご紹介致します。



[L-3]

超高感度からハイスループットまで~プロテオミクスの前処理/イオン化/分離技術

○板東泰彦¹⁾

1) エーエムアール株式会社

From ultra high sensitivity to high throughput~ Sample prep/nano ESI/HPLC for Proteomics

○ Yasuhiko Bando¹⁾

1)AMR,Inc.

Short Abstract: Proteomics has broadened its application from single cell to high throughput clinical analysis. Appropriate setup for each application is required in order to meet the demands. We will present the cutting-edge tools of sample prep/ nano ESI/chromatography in order to optimise the performance of whole proteomics prior to Mass Spectrometry.

Keywords: S-Trap, nano ESI technology, Chromatography column and HPLC systems

本ランチョンセミナーではプロテオミクスで利用する最新の前処理、ナノエレクトロスプレー、分離カラム及び HPLC システム技術を紹介する。S-Trap は 5% の SDS でサンプルを可溶化してペプチド化までを 1 チューブで行うことが可能である。脳組織や骨、細胞など様々な組成の違いのあるサンプルに対応し、SDS は完全に除去することができる。クロマトグラフィではより分離能の高いまたデッドボリュームの少ないナノカラムで超高感度分析やハイスループット分析が可能なカラム群を紹介する。EVOSEP ONE HPLC システムは幅広く使用されており、1 細胞プロテオミクスから臨床検体を解析するハイスループットプロテオミクスまで対応している。その特徴はコンタミネーションのない EVOTIP による前処理技術にある。新たに微量サンプルに対応する EVOTIP PURE を紹介する。質量分析装置に導入する直前でナノエレクトロスプレーは高感度化において重要な要素である。いかに効率よく、且つ堅牢さを保ちながらエレクトロスプレーを行うかはスプレーチップ技術として、その Geometry が重要であり、最新の Geometry 技術に基づいた ESI エミッター技術を紹介する。近年、タンパク質を Native や Intact で LC/MS 解析する技術がバイオ医薬の発展とともに重要になってきた。ChargeState の高い蛋白質を効率よくナノエレクトロスプレーを既存の HPLC で可能にする M3 エミッター技術を紹介する。

参考文献

[1] High-Resolution Native Mass Spectrometry, Sem Tamara, Maurits A. den Boer, and Albert J. R. Heck Chemical Reviews 2022 122 (8), 7269-7326

[L-4]

DIA-NN による data-independent acquisition (SWATH)のデータ解析の進化

○ 大槻 純男¹⁾

1) 熊本大学大学院生命科学研究部

Data processing of data-independent acquisition (SWATH) by DIA-NN

○ Sumio Ohtsuki¹⁾

1) Faculty of Life Sciences, Kumamoto University

Short Abstract: DIA-NN is a new software for data-independent acquisition (DIA/SWATH) proteomics data processing [1]. This software enables easy and high-throughput DIA/SWATH data processing and provides greater proteome data. This seminar will introduce our evaluation of data from DIA-NN.

Keywords: DIA, DIA-NN, SWATH

Data-independent acquisition (DIA/SWATH)は、MS1 および MS1 のスペクトルデータを損失無く取得する包括的なデータ取得法である。Data-dependent acquisition (DDA/IDA)と比較し、より intensity の低い peptide のデータを含んでいるため、そのような深部のデータを掘り起こすためのデータ解析手法の開発が盛んに行われている。一方で、解析手法の乱立が DIA のデータ解析を難しくしていた。我々も様々な解析ソフトウェアを使用し、また、解析のためのライブラリも複数の構築法を検討してきた。このような DIA データ解析の状況が DIA-NN の登場により一変した[1]。DIA-NN は、neural network を含めた新しいアルゴリズムを導入し DIA データ解析を難しくしていた複数の課題を克服した解析ソフトウェアである。DIA-NN を利用する事により DIA データ解析の量と質を格段にあげることができ、我々の SWATH データ解析に必要な不可欠なソフトウェアとなっている。本セミナーでは我々が実施した DIA-NN の性能評価や使用法について紹介する。

参考文献

[1] Demichev V, Messner CB, Vernardis SI, Lilley KS, Ralser M. DIA-NN: neural networks and interference correction enable deep proteome coverage in high throughput. *Nat Methods*. 17:41-4 (2020)

日本プロテオーム学会2022年大会
JPrOS2022 (20th JHUPPO)

ポスターセッション

ポスターセッション

8月9日(火曜日) / 8月10日(水曜日) Aug 9 (Tue) / Aug 10 (Wed)

8月9日 12:30~13:15 ポスターセッションA・13:15~14:00 ポスターセッションB

8月10日 12:30~13:15 ポスターセッションC・13:15~14:00 ポスターセッションD

ポスターセッション A-D / Poster Session A-D

- P-01A** Quadrupole-Orbitrap MS を用いたハイスループットプロテオーム解析法の構築
(2S3-2) Development of Ultra-Fast Proteomics System using Quadrupole-Orbitrap MS
○ 石川 将己¹⁾、紺野 亮¹⁾、中島 大輔¹⁾、後藤 真里²⁾、深澤 桂子²⁾、佐藤 裕範¹⁾、中村 蓮¹⁾、小原 収¹⁾、川島 祐介¹⁾
1) かずさ DNA 研究所、2) お茶の水女子大
- P-02B** 微量試料用前処理法である油中液滴法の開発と 1 細胞プロテオミクスへの応用
(2S3-4) Water droplet-in-oil digestion method toward single-cell proteomics
○ 増田 豪^{1,2)}、山廣 万貴²⁾、伊藤 慎悟^{1,2)}、大槻 純男^{1,2)}
1) 熊本大学大学院生命科学研究部、2) 熊本大学薬学部
- P-03C** 翻訳開始因子 eIF4A1 は LARP1 による翻訳抑制を促進する
(2S5-3) eIF4A1 facilitates LARP1-mediated translation repression
○ 七野 悠一¹⁾、水戸 麻理¹⁾、柏木 一宏²⁾、高橋 真梨²⁾、伊藤 拓宏²⁾、Ingolia Nicholas³⁾、岩崎 信太郎^{1,4)}
1) 理研・開拓研究本部、2) 理研・生命機能科学研究センター、3) カリフォルニア大学バークレー校、4) 東大・院新領域・メディカル情報生命
- P-04D** 高密度・ハイスループットプロテオミクスによるタンパク質動態研究
(3S7-1) Research on protein dynamics using high-density/high-throughput proteomics
○ 松本 雅記¹⁾
1) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 オミクス生物学

- P-05A** ヒトキヌーム活性計測および予測法の開発
(3S7-5) Development of the Method for Profiling Human Kinome Activity
○ 杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾
1) 京都大学大学院薬学研究科
- P-06B** 機能プロテオミクスのためのタンパク質複合体解析技術
(3S7-6) Protein complex analysis method for functional proteomics
○ 足達 俊吾^{1,1)}、夏目 徹^{1,1)}
1) 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門、2) 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門
- P-07C** リン酸化プロテオーム解析とインタラクトーム解析を組み合わせた ALK キナーゼの基質同定
Systematic identification of ALK substrates by integrated phosphoproteome and interactome analysis
○ 足立 淳^{1,2)}、覚道 明美¹⁾、高田 洋子¹⁾、池本 成美¹⁾、磯山 純子¹⁾、阿部 雄一¹⁾、鳴海 良平¹⁾、村岡 賢¹⁾、軍司 大悟¹⁾、原 康弘¹⁾、片山 量平³⁾、朝長 毅¹⁾
1) 医薬基盤・健康・栄養研究所、2) 京都大学大学院薬学研究科、3) がん研究会がん化学療法センター
- P-08D** Fatty Acid-Binding Protein-5 阻害薬により生じた肝細胞癌の分子生物学的変化に関するプロテオーム解析
Proteomic Analysis of the Molecular Biological Changes Induced by Fatty Acid-Binding Protein-5 inhibitor in Hepatocellular Carcinoma
○ 安達 雄輝¹⁾、野口 玲¹⁾、申 育實¹⁾、小野 拓也¹⁾、秋山 太郎¹⁾、大崎 珠理亜¹⁾、中野 愛里¹⁾、柳原 五吉^{1,3)}、甘利 圭悟⁴⁾、杉原 豊⁵⁾、吉松 有紀⁴⁾、横尾 英樹²⁾、近藤 格^{1,5)}
1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野、3) 株式会社 Biospecimen Laboratories、4) 栃木県立がん研究センター研究所 患者由来がん研究分野、5) 栃木県立がん研究センター研究所 腫瘍プロテオゲノミクス研究分野

P-09A 患者由来細胞株を使用した骨巨細胞腫に対する化学療法開発に向けたプロテオーム解析と抗がん剤の網羅的薬効評価試験

The proteome analysis and drug-screening using patient derived cell lines of giant cell tumor of bone for the development of the chemotherapy

○ 秋山 太郎^{1,2)}、吉松 由紀³⁾、野口 玲¹⁾、申 育實¹⁾、小野 拓也¹⁾、杉原 豊⁴⁾、甘利 圭悟³⁾、中野 愛里¹⁾、大崎 珠理亜¹⁾、安達 雄輝¹⁾、柳原 吾吉⁵⁾、大鳥 精司²⁾、川井 章⁶⁾、近藤 格^{1,3)}

1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 千葉大学大学院医学研究院整形外科学、3) 栃木県立がんセンター-研究所 患者由来がんモデル研究分野、4) 栃木県立がんセンター-研究所 腫瘍プロテオミクス研究分野、5) 株式会社バイオスペースミナラボラトリー、6) 国立がん研究センター病院 骨軟部腫瘍科

P-10B SOMAscan を用いた薬剤性間質性肺炎の新規バイオマーカー探索と有用性検証

(3S10-5) SOMAscan-based biomarker discovery in drug-induced interstitial lung disease and validation of its clinical significance.

○ 荒川 憲昭¹⁾、弦間 昭彦²⁾、巽 浩一郎³⁾、服部 登⁴⁾、大野 泰雄⁵⁾、斎藤 嘉朗¹⁾、花岡 正幸⁶⁾

1) 国立医薬品食品衛生研究所、2) 日本医科大学、3) 千葉大学、4) 広島大学、5) 木原記念横浜生命科学振興財団、6) 信州大学

P-11C アセトアミノフェンを用いたヒト肝細胞中プロテオーム解析による反応性代謝物が関与する薬剤性肝障害の機序解明

Proteomic analysis of human hepatic cell after treatment of acetaminophen for mechanisms of drug induced liver injury

○ 伴 涼太郎¹⁾、柿木 基治¹⁾、井上 和子¹⁾

1) エーザイ株式会社

P-12D SARS-CoV-2 受容体アンジオテンシン変換酵素 2 のチロシン硫酸化

Tyrosine sulfation of the SARS-CoV-2 receptor angiotensin-converting enzyme 2

○ 出向 みほ¹⁾、黒木 勝久¹⁾、寺本 岳大²⁾、角田 佳充²⁾、Ming-Cheh Liu³⁾、水光 正仁¹⁾、榊原 陽一¹⁾

1) 宮崎大学大学院農学研究科、2) 九州大学大学院農学研究院、3) トレド大学薬学部

P-13A Identification of the O-GalNAc glycoproteome related to the GALNT5 (3S9-2) expression in cholangiocarcinoma

○ Marutpong Detarya¹⁾, Daiki Kobayashi¹⁾, Atit Silsirivanit²⁾, Kanlayanee Sawanyawisuth²⁾, Sopit Wongkham²⁾, Chaisiri Wongkham²⁾, Norie Araki¹⁾

1) Department of Tumor Genetics and Biology, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, 2) Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Khon Kaen University

P-14B 転写因子 TEAD の新規翻訳後修飾リジン長鎖アシル化

(3S10-2) Lysine long-chain fatty acylation as novel posttranslational modification of TEADs

鈴木 健裕¹⁾、則次 恒太²⁾、伊藤 昭博²⁾、○ 堂前 直¹⁾

1) 理化学研究所環境資源科学研究センター、2) 東京薬科大学 生命科学部

P-15C Urinary Glycoproteomic Analysis for discovering Novel Biomarkers of DM

○ Amr Elguoshy¹⁾, K. Yamamoto¹⁾, K. Yanagita¹⁾, T. Uchimoto, T. Yamamoto^{1, 2)}

1) Biofluid Biomarker Center, Niigata University, 2) Clinical laboratory, Shinrakuen Hospital

P-16D コリジョンエネルギー最適化によるペプチド・タンパク質同定数の向上

Improvement of peptide/protein identification number by collision energy optimization

○ 藤田 雄一郎¹⁾、小澤 弘明¹⁾、中木村 有里子¹⁾、西尾 顕¹⁾、新苗 智也¹⁾、渡邊 淳¹⁾、町田 和典²⁾、吉井 和佳³⁾、石濱 泰²⁾

1) 株式会社島津製作所 分析計測事業部、2) 京都大学大学院薬学研究科、3) 京都大学大学院情報学研究科

P-17A タンパク質の高感度かつ高精度検出のためのペプチドタグ挿入酵母の利用とその改良

The use of peptide-tags toward high-sensitive and specific detection of multiple proteins in budding yeast and optimization of this strategy.

○ 藤原 稜斗¹⁾、紀藤 圭治¹⁾

1) 明治大学大学院・農学研究科

P-18B 大型二枚貝タイラギで新たに発見された産卵誘発ペプチドは同じイガイ目に属するムラサキイガイにも存在するか？

Search for spawning-inducing peptide from visceral ganglia in the Mediterranean mussel.

○ 船山 翔平¹⁾、松本 才絵¹⁾、前田 雪²⁾、小寺 義男^{3,4)}

1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 生理機能部 繁殖生理グループ、2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 生産技術部 技術開発第3グループ、3) 北里大学 理学部 物理学科 物性物理学研究室、4) 北里大学 理学部附属疾患プロテオミクスセンター

P-19C エクソソームの次世代プロテオミクスによる線維性過敏性肺炎の新規バイオマーカー開発

Identification of novel biomarkers for fibrotic hypersensitivity pneumonitis by the use of proteomics of serum exosomes

○ 原 伶奈¹⁾、武田 吉人¹⁾、足立 淳²⁾、夏目 やよい³⁾、伊藤 眞里³⁾、井上 義一⁴⁾、広瀬 雅樹⁴⁾、熊ノ郷 淳¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器免疫内科学、2) 医薬基盤研究所プロテオームリサーチプロジェクト、3) 医薬基盤研究所バイオインフォマティクスプロジェクト、4) 近畿中央呼吸器センター

P-20D ショットガンプロテオミクスにおけるマススペクトログラム階層クラスタリングによるタンパク質同定
(3S8-8)

Protein Identification by Hierarchical Clustering of Mass Spectrograms in Shotgun Proteomics

○ 疋田 拓也¹⁾、木部 航希¹⁾、吉井 和佳²⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 京都大学大学院情報学研究科

- P-21A** 肺腺がん細胞の遊走能獲得における LRRK2 の機能解析
(3S9-5) Functional analysis of LRRK2 in the migration ability of lung adenocarcinoma
○ 今井 基貴^{1,2)}、川上 文貴^{2,3)}、川島 麗^{2,3)}、朽津 有紀^{1,2)}、西原 奈菜枝⁴⁾、田村 慶介⁴⁾、一戸 昌明⁵⁾、村雲 芳樹⁵⁾、長塩 亮^{1,2)}
1) 北里大・医療・臨床検査、2) 北里大・医療・再生医療・細胞デザイン、3) 北里大・医療・生化、4) 北里大・院・応用腫瘍病理、5) 北里大・医・病理
- P-22B** プロテインホスファターゼ大規模解析用ペプチドプローブの開発
Development of Peptide Probes for Large-Scale Analysis of Protein Phosphatases
新苗 智也¹⁾、津曲 和哉^{1,2)}、今見 考志^{1,2)}、杉山 直幸¹⁾、○ 石濱 泰^{1,3)}
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 理化学研究所生命医科学研究センター、3) 医薬基盤・健康・栄養研究所
- P-23C** 腎症発症前糖尿病ラットにおけるマイトファジーによる腎近位尿細管保護と尿中ミトコンドリアタンパク質について
Mitophagy-related renal proximal tubular protection and analysis of mitochondrial proteins present in the urine during the normoalbuminuric stage of diabetes mellitus
○ 石井 直仁¹⁾、小寺 義男²⁾、高橋 博之¹⁾、黒崎 祥史¹⁾、井本 明美¹⁾、菅生 太朗³⁾、土筆 智晶⁴⁾、鈴木 英明⁵⁾、横場 正典¹⁾、市川 尊文¹⁾、竹中 恒夫⁶⁾、片桐 真人¹⁾
1) 北里大学医療衛生学部、2) 北里大学理学部、3) せいいかいメディカルクリニック、4) 北里大学病院臨床検査部、5) 福島県立医科大学保健科学部、6) 国際医療福祉大学医学部腎臓内科学
- P-24D** 胃癌においてフィブリノゲン発現は臨床病理学的悪性度と予後へ影響する
Fibrinogen affects the clinicopathological malignancy and prognosis in gastric cancer
○ 伊東 由夏¹⁾、松本 俊英²⁾、新治 涼太¹⁾、井上 明美¹⁾、三枝 信³⁾、高橋 博之²⁾
1) 北里大学大学院医療系細胞組織病理学、2) 北里大学医療衛生学部病理学、3) 北里大学医学部病理学

- P-25A** mRNAの細胞内局在を制御する責任タンパク質の探索
Analysis of proteins responsible for regulating sub-cellular localization of mRNA
○ 岩崎 未央¹⁾、山川 達也¹⁾、川原 優香¹⁾、吉野 千明¹⁾、宮本 洋佑¹⁾
1) 京都大学 iPS 細胞研究所
- P-26B** マウス着床前初期発生過程における網羅的なタンパク質発現解析
Comprehensive protein expression analysis during mouse pre-implantation development
○ 柿原 礼佳^{1,2)}、邵 睿祺¹⁾、松本 雅記²⁾、東田 裕一^{3,4)}
1) 九州大学大学院システム生命科学府、2) 新潟大学医歯学系システム生化学分野、
3) 九州大学稲盛フロンティア研究センター、4) 九州大学プラズマナノ界面工学センター
- P-27C** 細胞外小胞のためのスポンジ状分離プラットフォームの開発と酵素反応場への応用
Development of a spongy-like polymer monolith for separation of extracellular vesicles and enzyme reaction
○ 金尾 英佑^{1,2)}、田中 俊輔³⁾、久保 拓也⁴⁾、大塚 浩二⁴⁾、秋吉 一成⁴⁾、足立 淳^{1,2)}、石濱 泰^{1,2)}
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 医薬基盤・健康・栄養研究所、3) 京都大学薬学部、4) 京都大学大学院工学研究科
- P-28D** 少量タンパク質の効率的なゲル内消化法
An efficient in-gel digestion method on small amounts of protein sample
○ 加納 圭子¹⁾、佐藤 伸哉¹⁾、三城 恵美¹⁾
1) 名古屋大学 ITbM 分子構造センター
- P-29A** プロテオームワイドなチオール酸化修飾解析による前立腺がん細胞の内因性酸化ストレス応答反応の解明
Proteome-wide analysis of thiol oxidation to elucidate the intrinsic oxidative stress response in prostate cancer cells.
○ 小林 大樹¹⁾、高見 知代¹⁾、松本 雅記¹⁾
1) 新潟大学大学院医歯学総合研究科オミクス生物学分野

- P-30B** Surfaceome 解析を基盤とした卵巣癌細胞表面タンパク質シグネチャーの同定
(3S9-4) Surfaceome analysis revealed novel biomarker signature for ovarian cancer
○ 小林 信¹⁾、杉本 幸太郎¹⁾、宮川 諒也¹⁾、瓜生 開¹⁾、遠藤 雄大²⁾、小林 靖幸³⁾、田口 歩⁴⁾、千葉 英樹¹⁾
1) 福島県立医科大学医学部基礎病理学講座、2) 福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座、3) 福島県立医科大学医学部病理病態診断学、4) 愛知県立がんセンター分子診断トランスレーショナルリサーチ分野
- P-31C** ハイスループット GeLC-MS/MS 分析法の開発
Development of high-throughput GeLC-MS/MS method
○ 紺野 亮¹⁾、石川 将己¹⁾、中島 大輔¹⁾、小原 収¹⁾、川島 祐介¹⁾
1) かずさ DNA 研究所
- P-32D** 肺がん細胞の膜タンパク質を用いた診断マーカー候補分子の探索
Search for candidate molecules of diagnostic marker using plasma membrane proteins of lung cancer cells
○ 朽津 有紀^{1,2,3)}、西原 奈菜枝²⁾、小寺 義男⁴⁾、田村 慶介²⁾、今井 基貴^{1,2,3)}、土屋 紅緒^{2,3,5)}、村雲 芳樹⁶⁾、三枝 信⁶⁾、長塩 亮^{1,2,3)}
1) 北里大学 医療衛生学部 臨床検査学、2) 北里大学大学院 医療系研究科 応用腫瘍病理学、3) 北里大学 医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設、4) 北里大学 理学部 物性物理学、5) 北里大学 医療衛生学部 病理学、6) 北里大学 医学部 病理学
- P-33A** ターゲットプロテオミクスによる高速菌叢プロファイリング法の開発
(3S8-7) Toward high-throughput taxonomy profiling by targeted proteomics
○ 工藤 拓実¹⁾、山下 蓮太郎¹⁾、Pei-Shan Wu¹⁾、三浦 信明²⁾、奥田 修二郎^{2,3)}、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 新潟大学大学院医歯学総合研究科、3) 新潟大学医学部メディカル AI センター

- P-34B** 全自動糖鎖プロファイリング用 15 レクチン搭載 GlycoBIST チップの開発
GlycoBIST adopts minimized 15 lectins for full-automatic glycan profiling
○ 久野 敦¹⁾、小野 綾香¹⁾、大谷 弘美¹⁾、栗山 有希子¹⁾、水門 佐保¹⁾、大林 知美²⁾、田中 ナナ²⁾、澤上 一美²⁾
1) 産業技術総合研究所、2) プレシジョン・システム・サイエンス
- P-35C** 質量分析データからの高精度なペプチドピーク抽出法の確立
LC-MS peak assignment based on unanimous selection by six machine learning algorithms.
○ 松井 崇^{1,2)}、伊藤 大晃¹⁾、紺野 亮¹⁾、溜 亜海¹⁾、板倉 誠^{2,3)}、小寺 義男^{1,2)}
1) 北里大学 理学部、2) 北里大学 理学部附属疾患プロテオミクスセンター、3) 北里大学 医学部
- P-36D** 神経分化過程におけるヒト人工多能性幹細胞由来神経幹細胞および前駆細胞のプロテオーム特性評価
Proteomic characterization of neural stem and progenitor cells during differentiation of human induced pluripotent stem cells
○ 松嶋 華子¹⁾、西村 梨香¹⁾、浦澤 貴哉¹⁾、川崎 ナナ¹⁾
1) 横浜市立大学生命医科学研究科
- P-37A** 微分型イオン移動度質量分析によるがん免疫医療のための免疫ペプチドームの探索
(3S10-3) Exploring the immunopeptidome by differential ion mobility mass spectrometry for cancer immunotherapy
○ 峯岸 ゆり子¹⁾、清谷 一馬¹⁾、長山 聡^{1,2)}、植田 幸嗣¹⁾
1) 公益財団法人がん研究会、2) 宇治徳洲会病院
- P-38B** 飲料に混入された有毒タンパク質リシンの FASP 法を用いた定量分析
Quantitative analysis of ricin added in beverages using filter aided sample preparation
○ 宮口 一¹⁾、大塚 麻衣¹⁾
1) 科学警察研究所

- P-39C** iPP 前処理法と diaPASEF スキャンを利用したヒト 100 細胞プロテオミクス
100 human cell proteomics using iPP pretreatment and diaPASEF scan
○ 森 大^{1,2)}、大沼 澄子¹⁾、富田 勝^{1,2)}
1) 慶應義塾大学先端生命科学研究所、2) 慶應義塾大学政策メディア研究科
- P-40D** Glyco-RIDGE 法によるマウス組織糖タンパク質の部位特異的 N 型糖鎖修飾の大規模分析
(2S2-3) Large-scale identification of site-specific N-glycosylations of mouse tissue glycoproteins using a Glyco-RIDGE method
○ 岡谷 千晶¹⁾、富岡 あづさ¹⁾、助川 昌子¹⁾、藤田 弥佳¹⁾、富永 大介¹⁾、坂上 弘明¹⁾、久野 敦¹⁾、梶 裕之^{1,2)}
1) 産業技術総合研究所、2) 名古屋大学
- P-41A** AI 技術を搭載した「CHIMERYS™」によるボトムアッププロテオミクスへの挑戦
Challenges in bottom-up proteomics with CHIMERYS equipped with AI technology
○ 永島 良樹¹⁾、渡邊 史生¹⁾、肥後 大輔¹⁾
1) Thermo Fisher Scientific 株式会社
- P-42B** システイン S-アミノエチル化を用いたタンパク質消化法の開発
(3S8-6) Protein Digestion Using Cysteine S-Aminoethylation for Deep Proteomics
○ 中井 郁那¹⁾、富岡 亮太¹⁾、小形 公亮¹⁾、金尾 英佑^{1,2)}、石濱 泰^{1,2)}
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 医薬基盤・健康・栄養研究所
- P-43C** 乾燥ろ紙血を対象とした高深度プロテオーム解析
Deep proteome analysis for dried blood spots
○ 中島 大輔、小原 収、川島 祐介
1) かずさ DNA 研究所

- P-44D** 患者由来がん細胞株を用いた温熱化学療法の肉腫への有効性の評価
Evaluation of effects of hyperthermia using patient-derived sarcoma cell lines
○ 中野 愛里^{1,2)}、野口 玲¹⁾、申 育實¹⁾、大崎 珠理亜¹⁾、小野 拓也^{1,2)}、秋山 太郎¹⁾、安達 雄輝¹⁾、柳原 五吉^{1,3)}、甘利 圭悟⁴⁾、杉原 豊⁵⁾、吉松 有紀⁴⁾、近藤 格^{1,5)}
1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 長崎大学医歯薬学総合研究科、3) 株式会社バイオスペシミンラボラトリー、4) 栃木県立がんセンター研究所 患者由来がんモデル研究分野、5) 栃木県立がんセンター研究所 腫瘍プロテオゲノミクス研究分野
- P-45A** タンパク質末端解析データを用いたノンカノニカルタンパク質の同定
(2S5-2) Identification of non-canonical proteins by protein terminomics
○ 西田 紘士¹⁾、今見 考志^{1,2)}、高地 雄太³⁾、石濱 泰^{1,4)}
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 理化学研究所生命医科学研究センター、3) 東京医科歯科大学 難治疾患研究所、4) 医薬基盤・健康・栄養研究所
- P-46B** DIA-MS による幹細胞の神経分化における糖鎖合成酵素の時間的プロファイリング
Temporal profiling of enzymes involved in glycan synthesis during neural differentiation of stem cells by DIA-MS
○ 西村 梨香¹⁾、松嶋 華子¹⁾、浦澤 貴哉¹⁾、川崎 ナナ¹⁾
1) 横浜市立大学生命医科学研究科
- P-47C** 土器附着物を用いたプロテオミクスによる古代人の食生活の復元
(3S10-4) Paleoproteomics of food crusts on pottery excavated from east asia
○ 西内 巧、庄田 慎矢
1) 金沢大学、2) 奈良文化財研究所
- P-48D** あさりアレルギーにおける新規アレルゲンタンパク質の解析
Search for novel allergen of *Ruditapes philippinarum* allergy using IgE-immunoblotting assay
○ 小田川 雄紀¹⁾、小寺 義男²⁾、下条 直樹³⁾、曾川 一幸¹⁾
1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) 北里大学理学部、3) 千葉大学予防医学センター

- P-49A** タンパク質限定標識法による構造プロテオミクスの高感度化
(2S3-1) Improving the Sensitivity in Structural Proteomics based on Protein Footprinting
○ 小形 公亮¹⁾、前田 朝登¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾
1) 京都大学大学院薬学研究科
- P-50B** 組織学的観察およびプロテオーム解析によるスフェロイドの灌流培養系の評価
Histological and proteomic analysis for the evaluation of perfusion culture system of spheroids
○ 小野 拓也^{1,2)}、野口 玲¹⁾、申 育實¹⁾、大崎 珠理亜¹⁾、秋山 太郎¹⁾、安達 雄輝¹⁾、中野 愛里¹⁾、柳原 五吉^{1,3)}、甘利 圭悟⁴⁾、杉原 豊⁵⁾、吉松 有紀⁴⁾、小寺 義男⁶⁾、近藤 格^{1,5)}
1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科、3) 株式会社 Biospecimen Laboratories、4) 栃木県立がんセンター研究所 患者由来がんモデル研究分野、5) 栃木県立がんセンター研究所 腫瘍プロテオゲノミクス研究分野、6) 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター
- P-51C** タンパク質複合体の解析による治療標的の同定：融合遺伝子を持つ肉腫を対象として
Identification of therapeutic targets by analysis of protein complexes :Targeting sarcomas with fusion genes
○ 大崎 珠理亜¹⁾、野口 玲¹⁾、申 育實¹⁾、小野 拓也¹⁾、秋山 太郎¹⁾、安達 雄輝¹⁾、中野 愛里¹⁾、柳原 五吉^{1,2)}、甘利 圭悟³⁾、杉原 豊⁴⁾、吉松 有紀³⁾、近藤 格^{1,4)}
1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 株式会社バイオスペシミンラボラトリー、3) 栃木県立がんセンター研究所 患者由来がんモデル研究分野、4) 栃木県立がんセンター研究所 腫瘍プロテオゲノミクス研究分野
- P-52D** iMPAQT ver. 2 による細胞内パスウェイ構造の定量的可視化の試み
Quantification of intracellular pathway component proteins by iMPAQT ver. 2
○ 押川 清孝¹⁾、高見 知代¹⁾、松本 雅記¹⁾
1) 新潟大学医歯学系（医）システム生化学分野

- P-53A** 高濃度 PEG 含有蛋白質結晶からの LC-MS によるアミノ酸解析
LC-MS analysis of the protein crystallized by PEG
○ 大城 拓未¹⁾、影山 大夢²⁾、小野寺 かこ²⁾、辺 浩美³⁾、中島 寛也³⁾、小川 智久^{2,4)}、横山 武司²⁾、田中 良和²⁾、酒井 隆一³⁾、松井 崇^{1,5)}、小寺 義男^{1,5)}
1) 北里大学 理学部、2) 東北大学 大学院 生命科学研究科、3) 北海道大学 大学院 水産科学研究科、4) 東北大学 大学院 農学研究科、5) 北里大学 理学部附属疾患プロテオミクスセンター
- P-54B** どんぐりアレルギーにおける新規アレルゲンタンパク質の解析
Search for novel allergen of *Castanopsis sieboldii* allergy using IgE-immunoblotting assay
○ 大嶽 日菜¹⁾、武田 真梨子²⁾、佐藤 純一²⁾、下条 直樹³⁾、曾川 一幸¹⁾
1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) 船橋市立医療センター 小児科、3) 千葉大学予防医学センター
- P-55C** びらん剤使用証明のためのヒト血清アルブミンとの新たな結合位置の探索
Investigation of new binding sites of blister agent to human serum albumin for verification of blister agent exposure
○ 大塚 麻衣¹⁾、宮口 一¹⁾
1) 科学警察研究所
- P-56D** Global- and phospho-proteomics identify specific lipid metabolism pathways involved in the maintenance of glioma stem-like cells
○ Orasa Panawan¹⁾, Atit Silsirivanit²⁾, Chih-Hsiang Chang¹⁾, Siyaporn Putthisen²⁾, Taro Yokota¹⁾, Yuki Nishiyama-Ikeda¹⁾, Akiko Niibori-Nambu¹⁾, Norie Araki¹⁾
1) Department of Tumor Genetics and Biology, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, 2) Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Khon Kaen University

- P-57A** LRRK2/Akt シグナル系は胃癌における予後不良因子である。
LRRK2/Akt axis is a poor prognosis factor in gastric cancer
○ 新治 涼太¹⁾、松本 俊英²⁾、伊東 由夏¹⁾、川上 文貴³⁾、三枝 信⁴⁾、高橋 博之²⁾
1) 北里大学大学院医療系細胞組織病理学、2) 北里大学医療衛生学部病理学、3) 北里大学医療衛生学部衛生管理学、4) 北里大学医学部病理学
- P-58B** 培養上清を用いた膵臓癌の新規診断マーカーの解析
Search for novel diagnostic markers of pancreatic ductal adenocarcinoma using secretome and proteome analysis
○ 篠田 典明¹⁾、高野 重紹²⁾、小寺 義男³⁾、大塚 将之²⁾、曾川 一幸¹⁾
1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) 千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学、3) 北里大学理学部
- P-59C** Myo-ribosome は翻訳伸長ダイナミクスの調節により心機能に必須の役割を果たす
(2S5-4) Myo-ribosomes determine translation elongation dynamics required for cardiac function
○ 白石 千瑛¹⁾、松本 有樹修¹⁾、市原 知哉¹⁾、幡野 敦²⁾、松本 雅記²⁾、中山 敬一¹⁾
1) 九州大学生医研分子医科学分野、2) 新潟大学医歯学系システム生化学分野
- P-60D** 逆相タンパク質アレイを用いたスフェロイド特異的な活性化タンパク質の検出
Identification of spheroid-specific phosphorylated proteins by using Reverse-Phase Protein Array
○ 申 育實¹⁾、増田 万里²⁾、野口 玲¹⁾、大崎 珠理亜¹⁾、小野 拓也¹⁾、秋山 太郎¹⁾、安達 雄輝¹⁾、中野 愛里¹⁾、柳原 五吉³⁾、杉原 豊⁴⁾、甘利 圭悟⁴⁾、吉松 有紀⁵⁾、近藤 格^{1,2,4)}
1) 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野、2) 国立がん研究センター研究所 プロテオーム解析部門、3) 株式会社バイオスペシミンラボラトリー、4) 栃木県立がんセンター研究所 腫瘍プロテオゲノミクス研究分野、5) 栃木県立がんセンター研究所 患者由来がん研究分野

P-61A Tandem Mass Tag を用いたタンデム質量分析法による膵臓癌の新規診断マーカー
(3S8-2) の解析

Search for novel diagnostic markers of pancreatic ductal adenocarcinoma using Tandem Mass Tag and proteome analysis

○ 相馬 穂花¹⁾、佐藤 里奈²⁾、高野 重紹³⁾、大塚 将之³⁾、曾川 一幸¹⁾

1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) けいゆう病院、3) 千葉大学大学院 医学研究院臓器制御外科学

P-62B ストップコドンリードスルーにおける誤翻訳アミノ酸の同定

Identification of a mistranslation sequence while the stop codon read-through

○ 須藤 愛莉咲¹⁾、浅野 航佑²⁾、原口 大輝¹⁾、小川 智久³⁾、横山 武司²⁾、田中 良和²⁾、松井 崇^{1,4)}、小寺 義男^{1,4)}

1) 北里大学 理学部、2) 東北大学 大学院 生命科学研究科、3) 東北大学 大学院 農学研究科、4) 北里大学 理学部附属疾患プロテオミクスセンター

P-63C ネコ慢性腎症の新規診断マーカーの探索と評価

Search for novel diagnostic markers of chronic kidney disease in cats using proteome analysis

○ 鈴木 結子¹⁾、前田 浩人²⁾、小寺 義男³⁾、曾川 一幸¹⁾

1) 麻布大学生命・環境科学部生化学研究室、2) 前田獣医科医院、3) 北里大学理学部

P-64D 臨床 O-グライコプロテオミクスによる再発/進行大腸がん特異的 O-型糖鎖修飾タンパク質の同定

Clinical O-glycoproteomics for discovery of advanced colorectal cancer-specific O-glycoproteins

○ 高倉 大輔¹⁾、大橋 祥子¹⁾、小林 規俊¹⁾、廣島 幸彦¹⁾、徳久 元彦¹⁾、市川 靖史¹⁾、川崎 ナナ¹⁾

1) 横浜市立大学

- P-65A** DIA データ解析における安定同位体標識等の多様なアプリケーションに対応したソフトウェアの開発
Development of software for various applications such as stable isotope labeling in DIA data analysis.
○ 高見 知代¹⁾、幡野 敦¹⁾、松本 雅記¹⁾
1) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 オミクス生物学
- P-66B** 血液ペプチドーム解析のさらなる高感度化を目指して
Enhanced sensitivity of plasma peptidomics
○ 溜 亜海¹⁾、鈴木 輝¹⁾、中川 譲¹⁾、紺野 亮¹⁾、松井 崇^{1,2)}、小寺 義男^{1,2)}
1) 北里大学理学部、2) 北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター
- P-67C** Comprehensive analysis of protein-expression changes specific to immunoglobulin G4-related disease
○ 高田 尊信¹⁾、河南 崇典²⁾、岩男-河南 悠²⁾、石垣 靖人¹⁾、友杉 直久¹⁾、竹上 勉¹⁾、柳澤 浩人²⁾、坂井 知之²⁾、藤田 義正²⁾、山田 和徳²⁾、水田 秀一²⁾、川端 浩^{2,3)}、福島 俊洋²⁾、廣瀬 優子²⁾、正木 康史²⁾
1) 金沢医科大学 総合医学研究所、2) 金沢医科大学 血液免疫内科学、3) 国立病院機構京都医療センター 血液内科・希少血液疾患科
- P-68D** 定量プロテオミクスを用いた T 細胞受容体刺激による二峰性 ERK 活性化の解析
Analysis of bimodal ERK activation by T cell receptor stimulation using quantitative proteomics
○ 田邊 ひかる¹⁾、幡野 敦¹⁾、松本 雅記¹⁾
1) 新潟大学大学院医歯学総合研究科
- P-69A** イオンモビリティ質量分析計を活用した抗体医薬品および新型コロナウイルスタンパク質のアミノ酸配列解析
Amino acid sequence analysis of antibody pharmaceuticals and SARS-CoV-2 virus proteins using ion mobility mass spectrometer
○ 田中 祥徳¹⁾
1) 株式会社東レリサーチセンター

- P-70B** マルチオミクスデータの解釈を支援する分子ネットワーク解析
Molecular network analysis of multi-omics data.
○ 谷口 理恵¹⁾、重高 美紀¹⁾、井上 陽子¹⁾、岩崎 奈可子¹⁾、太田 美枝子¹⁾、増野
和子¹⁾、宮原 静¹⁾、重高 誠¹⁾
1) 株式会社 KM データ
- P-71C** 新規タグ試薬を用いた超硫黄修飾タンパク質解析法の開発
Development of analytical methods for protein polysulfides using new
chemical tags
○ 梅澤 啓太郎¹⁾、津元 裕樹¹⁾、川上 恭司郎¹⁾、三浦 ゆり¹⁾
1) 東京都健康長寿医療センター研究所
- P-72D** DIA-MS を用いた定量プロテオミクスによるヒト iPS 細胞の分化制御因子の探索
(3S8-5) DIA-MS based quantitative proteomics to search for regulators of hiPSC
differentiation
○ 浦澤 貴哉¹⁾、小泉 匠¹⁾、木村 一雅¹⁾、太田 悠葵¹⁾、川崎 ナナ¹⁾
1) 横浜市立大学大学院 生命医科学研究科
- P-73A** 卵巣癌患者腹水中に含まれる新規自己抗体群の同定
Autoimmunomics revealed autoantibody-autoantigen complex signature for
diagnosis of ovarian cancer
○ 瓜生 開¹⁾、小林 信¹⁾、杉本 幸太郎¹⁾、遠藤 雄大²⁾、千葉 英樹¹⁾
1) 福島県立医科大学医学部基礎病理学講座、2) 福島県立医科大学医学部産科婦人
科学講座
- P-74B** 胎便プロテオーム解析を用いた新生児の消化管疾患に対する新たな治療戦略創出へ
(3S9-6) の挑戦
Exploratory research of new clinical strategies for gastrointestinal diseases in
neonate using deep proteome analysis of meconium
○ 渡辺 栄一郎^{1,2)}、川島 祐介³⁾、紺野 亮³⁾、設楽 佳彦⁴⁾、柿原 知²⁾、高橋 尚人⁴⁾、
川上 英良⁵⁾、小原 収³⁾、藤代 準²⁾
1) 国立成育医療研究センター 小児外科系専門診療部 外科、2) 東京大学医学部附
属病院 小児外科、3) かずさ DNA 研究所、4) 東京大学医学部附属病院 小児科、5)
理化学研究所 先端データサイエンスプロジェクト 医療データ数理推論チーム

- P-75C** ヒトグリオーマ悪性形質獲得機構関連因子の探索
(3S8-1) Identification of proteins associated with malignant transformation mechanisms in glioblastoma.
○ 渡邊 莉奈^{1,2)}、井野 洋子¹⁾、西 真由子²⁾、秋山 知子¹⁾、森山 佳谷乃¹⁾、中居 佑介¹⁾、梁 明秀^{1,2)}、木村 弥生¹⁾
1) 横浜市立大学先端医科学研究センター、2) 横浜市立大学大学院医学研究科微生物学
- P-76D** SARS-CoV-2 感染細胞におけるグローバルおよびリン酸化プロテオームの経時的解析
Temporal analysis of the global and phosphoproteome of SARS-CoV-2 infected cells
○ 渡邊 佑太¹⁾、村本 裕紀子²⁾、小田 裕香子³⁾、小形 公亮¹⁾、杉山 直幸¹⁾、野田 岳志²⁾、豊島 文子²⁾、石濱 泰¹⁾
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) 京都大学大学院生命医科学研究科、3) 京都大学 iPS 細胞研究所
- P-77A** 尿プロテオームから血漿プロテオームを除いて腎臓由来の尿タンパク質を定量する試み
Quantitative evaluation of proteins excreted from urinary tract tissues in urine by subtracting plasma proteome from urine proteome
○ 山本 恵子¹⁾、柳田 憲吾¹⁾、Elguoshy Amr¹⁾、内許 智博¹⁾、山本 格^{1,2)}
1) 新潟大学生体液バイオマーカーセンター、2) 信楽園病院検査科
- P-78B** 血清エクソソームのプロテオミクスによる小細胞肺癌の新規バイオマーカーの探索
Proteomics of serum extracellular vesicles identifies a novel SCLC biomarker
○ 山本 真¹⁾、菅 泰彦²⁾、武田 吉人¹⁾、中坪 大亮¹⁾、榎本 貴俊¹⁾、吉村 華子¹⁾、網屋 沙織¹⁾、原 伶奈¹⁾、川崎 貴裕¹⁾、白山 敬之¹⁾、三宅 浩太郎¹⁾、伊藤 眞理³⁾、足立 淳³⁾、上條 陽平⁴⁾、澤田 隆介⁴⁾、山西 芳裕⁴⁾、熊ノ郷 淳¹⁾
1) 大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫内科学、2) 大阪警察病院 呼吸器内科、3) 医薬基盤・健康・栄養研究所、4) 九州工業大学 大学院情報工学研究院 生命化学情報工学研究系

- P-79C** レナリドミド耐性多発性骨髄腫細胞株における CSN5 の分解調整因子の探索
(3S8-4) Identification of regulatory proteins of CSN5 degradation in lenalidomide-resistant multiple myeloma cell lines
○ 山本 拓実¹⁾、増田 豪^{1,2)}、伊藤 慎悟^{1,2)}、大槻 純男^{1,2)}
1) 熊本大学大学院薬学教育部、2) 熊本大学大学院生命科学研究部
- P-80D** 抗体医薬品の脱アミド化反応における各種プロテアーゼ処理の影響
Effects of various protease treatments on the deamidation reaction of antibody drugs
○ 山中 結子、鎌田 春彦
1) 医薬基盤・健康・栄養研究所
- P-81A** シロイヌナズナ ABA 非感受性変異体 abi1-1 を用いた比較リン酸化プロテオーム解析
Comparative phosphoproteomic analysis using abi1-1 mutants of Arabidopsis thaliana in ABA response.
○ 山下 昂太¹⁾、三枝 瑞季¹⁾、梅澤 泰史¹⁾
1) 東京農工大・院・BASE
- P-82B** 糖尿病患者の尿バイオマーカー探索のための定量プロテオミクス
(2S6-4) Quantitative Proteomics of Urine to Discover Biomarkers for Diabetes Patients
○ 柳田 憲吾¹⁾、山本 恵子¹⁾、Elguoshy Amr¹⁾、内許 智博¹⁾、山本 格^{1,2)}
1) 新潟大学生体液バイオマーカーセンター、2) 信楽園病院検査科
- P-83C** 生体内少数分子を標的とした分子間相互作用ネットワークの探索
(3S7-3) Exploration of Molecular Interaction Networks Targeting a Small Number of Molecules
○ 矢崎 潤史¹⁾、川島 祐介²⁾、岩瀬 哲³⁾、小林 敦夫¹⁾、山梨 貴士^{1,4,5)}、杉本 慶子³⁾、韓 龍雲¹⁾、今見 考志¹⁾、小原 収²⁾、清田 純^{1,4,5)}
1) 理化学研究所 IMS、2) かずさ DNA 研究所、3) 理化学研究所 CSRS、4) 理化学研究所 ADSP、5) 筑波大学グローバル教育院

- P-84D** 子宮内膜癌における PTEN 過剰発現細胞が示す形態・分子機構の改変
(3S9-3) Modified morphological and molecular mechanisms by PTEN overexpression in endometrial carcinoma
○ 横井 愛香¹⁾、南 麻里奈¹⁾、松本 俊英²⁾、小栗 康子¹⁾、橋村 美紀¹⁾、長谷川 嘉則³⁾、三枝 信¹⁾
1) 北里大学・医学部・病理学、2) 北里大学・医療衛生学部・病理学、3) 公財・かずさ DNA 研究所
- P-85A** 最適化グローバルプロテオミクスによる胆管がん由来幹細胞の性状解析
(3S8-3) Characterization of cholangiocarcinoma stem-like cells by optimized global proteomics
○ 横田 太郎^{1,2)}、パナワン オラサ^{1,3)}、チーシャン チャン¹⁾、シルシリヴァント アチト³⁾、中村 雅史²⁾、荒木 令江¹⁾
1) 熊本大学 生命科学研究部 腫瘍医学、2) 九州大学大学院 医学研究院 臨床腫瘍外科、3) コンケン大学 医学部 生化学
- P-86B** SWATH 法によるマンゴー葉抽出物で処理した LPS 活性化 Raw264.7 細胞のプロテオームプロファイルの経時的変化の測定
Changes over time in the proteome profiles of mango leaf extract-treated LPS-activated Raw264.7 cells measured by SWATH mass spectrometry
○ 吉元 健人¹⁾、北野 未樹²⁾、黒川 萌音²⁾、近江 響²⁾、永井 宏平^{1,2)}
1) 近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻、2) 近畿大学生物理工学部遺伝子工学科
- P-87C** ブタ I 型コラーゲンの組織間における 3-HydroxyProline の定量比較
Quantitative comparison of 3-HydroxyProline in porcine type I collagen between tissues.
○ 吉元 瞭¹⁾、木下 泰平²⁾、國井 沙織^{1,2)}、永井 宏平^{1,2)}、森本 康一^{1,2)}
1) 近畿大学大学院生物工学専攻、2) 近畿大学生物理工学部遺伝子工学科

P-88D 次世代プロテオミクスによる気管支喘息 T2 炎症の新規 BM 開発

Identification of novel biomarkers for asthma reflecting type 2 inflammation by the next generation proteomics of serum exosomes

○ 吉村 華子¹⁾、武田 吉人¹⁾、山本 真¹⁾、中坪 大亮¹⁾、榎本 貴俊¹⁾、原 伶奈¹⁾、白井 雄也¹⁾、足立 淳²⁾、伊藤 真里²⁾、熊ノ郷 淳¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科、2) 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPO)

広告

EVOSEP ONE

キャリアオーバーのない多検体プロテオミクス

Evosep Oneは、「臨床プロテオミクスを100倍強固に、10倍高速化」という信念のもと、従来のHPLCとは異なるコンセプトを持つ革新的なHPLCとして開発されました

Evotip sample Preparation

専用のステージチップ「Evotip」を使用
不純物はEvotipに留まり、キャリアオーバーなしでSPEダイレクト注入

Methods

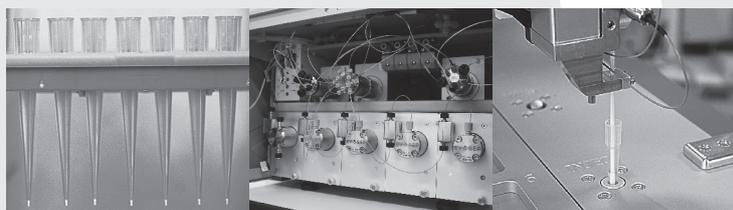
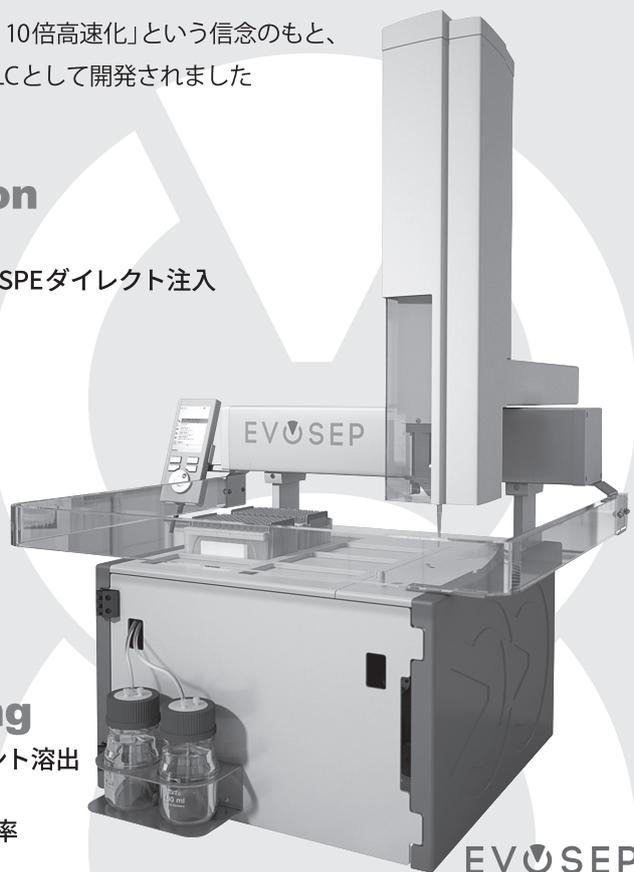
5つのプリセットメソッドから選択
1日あたり最大300サンプル処理可能

Workflow

従来よりも手動のステップを減らした
シンプルなワークフロー
ドライダウンおよび再溶解の工程を削除

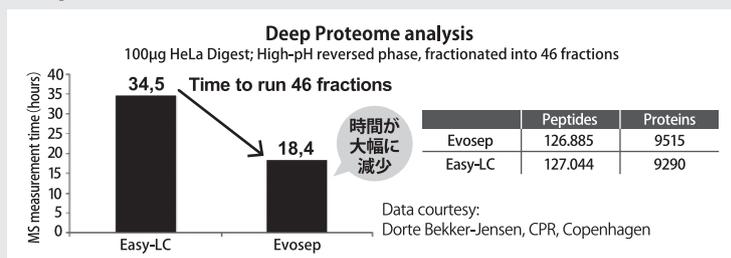
Gradient Offset Focussing

35%アセトニトリル水溶液でEvotipからグラジエント溶出
独自のPre-formedグラジエントで
分析カラムやMSの汚れが少なく高いシステム稼働率



Evosep One
製品ページはこちら

Fractionationを併用し、
Deep Proteomics (約1万タンパク質同定)が可能



エーエムアール株式会社

〒152-0031 東京都目黒区中根2-13-18
Tel 03-5731-2281/Fax 03-5731-2283

<https://www.amr-inc.co.jp/>

エーエムアール



AMR
AMR INCORPORATED

新しい高分解能質量分析装置



あらゆる化合物分析に 新たな構造情報を

SCIEX ZenoTOF 7600システム



2つの特徴

多様な化合物の構造推定が可能に 【EAD:電子励起解離】

電子エネルギーが調整可能なEADセルで、
低分子化合物からタンパク質まで、
解析に必要なフラグメントイオンを取得可能。

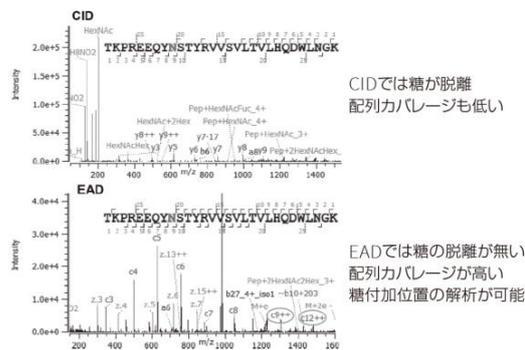
感度が従来より5-20倍向上 【Zeno trap pulsing】

Zeno trapの使用で、
MS/MSデューティーサイクルを向上し、
90%以上のTOFへのイオン注入が可能に。

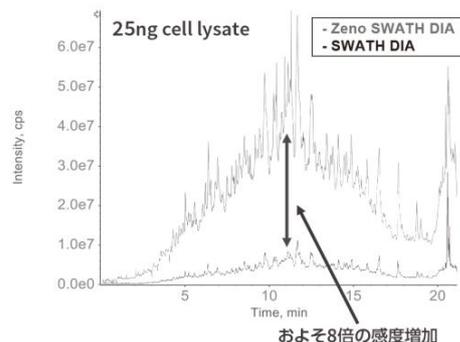
精密質量LC-MS/MSの新技术



糖ペプチドの解析におけるEADの優位性



ZenoTRAPによるDIAの感度増加 (MS/MS TIC)



株式会社エービー・サイエックス

本社：〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー 21F

TEL：0120(318)551 FAX：0120(318)040

大阪：〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-19-3 ピアスタワー 3F

www.sciex.jp Email：jp_sales@sciex.com

The SCIEX clinical diagnostic portfolio is For In Vitro Diagnostic Use. Rx Only. Product(s) not available in all countries. For information on availability, please contact your local sales representative or refer to <https://sciex.com/diagnostics>. All other products are For Research Use Only. Not for use in Diagnostic Procedures. Trademarks and/or registered trademarks mentioned herein, including associated logos, are the property of AB Sciex Pte. Ltd. or their respective owners in the United States and/or certain other countries. Echo and Echo MS are trademarks or registered trademarks of Labcyte, Inc. in the United States and other countries, and are being used under license. The images shown may be for illustration purposes only and may not be an exact representation of the product and/or the technology. Plates are available from Beckman Coulter Life Sciences. © 2022 DH Tech. Dev. Pte. Ltd.

MKT13-1091A

ラボ空間の最適環境づくりを お手伝いします。

研究用試薬

研究用総合機器

臨床検査薬

臨床検査用機器

O A 機器

事務用機器

尾崎理化株式会社

本社 神奈川県相模原市緑区根小屋1888
〒252-0153 電話 042(784)2525 FAX 042(784)2555
E-mail:honsha@ozakirika.co.jp
URL<http://www.ozakirika.co.jp/>

横浜営業所 横浜市緑区いぶき野31-10
〒226-0028 電話 045(988)0531 FAX 045(988)0532
E-mail:yokohama@ozakirika.co.jp

多摩営業所 東京都八王子市長沼町200-6
〒192-0907 電話 042(637)2200 FAX 042(632)7212
E-mail:tama@ozakirika.co.jp

川崎営業所 神奈川県川崎市川崎区鋼管通1-3-3
〒210-0852 電話 044(329)1414 FAX 044(329)1755
E-mail:kawasaki@ozakirika.co.jp

MSのキャリーオーバー
でお困りの方必見!!



NANOSPACE NASCA2

究極の低キャリーオーバーUHPLC
～あなたのサンプルを吸着・拡散させることなく最短で検出器に届ける～

イナート仕様で金属への吸着性の高いタンパク質や生理活性物質の分析に有効!!



Straight Injection Technology™搭載

キャリーオーバーを極限まで低減

拡散を抑えた低デッドボリューム機構

コンパクトなMSフロント用UHPLC



株式会社 大阪ソーダ

ヘルスケア事業部
営業部

製品に関する詳細はHPまで!!

大阪ソーダ HPLC

<https://sub.osaka-soda.co.jp/HPLC/>

〒550-0011 大阪市西区阿波座一丁目12番18号
TEL 06-6110-1598 FAX 06-6110-1612
E-mail silica@osaka-soda.co.jp

thermo scientific



今日の発見を超えて

今日の最先端研究はLC-MS技術を限界まで押し進めています。非常に複雑な分子および生体システムに関する信頼性の高い見識を得ることは、これまで以上に急速に必要とされています。Thermo Scientific™ Orbitrap Eclipse™ Tribrid™ 質量分析計は、最高レベルのデータ品質と信頼性を保証するインテリジェンスが内蔵され、実験範囲を拡張する究極の適応力を提供する新しい革新により、既存のLC-MSの限界を超えています。一つのシステムで最大限の見識が得られるため、今日の発見を超えて生産的に研究を進められます。



詳細はこちらをご覧ください。 thermofisher.com/OrbitrapEclipse

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

TEL.0120-753-670 FAX.0120-753-671

Analyze.jp@thermofisher.com thermofisher.com

ThermoFisher
SCIENTIFIC



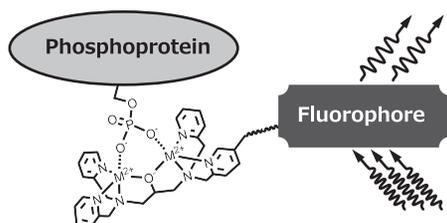
リン酸化プロテオミクス試薬 わかる 集める 見える Phos-tag technology

NARD institute, ltd.

Phos-tag(フォスタグ)とは、広島大学の医薬分子機能科学研究所が開発したリン酸モノエステルアニオン ($R-OPO_3^{2-}$) を中性 pH(生理的 pH)において捕捉する機能性分子です

Phos-tag™ Gel Stain

ゲル内リン酸化タンパク質を
高効率かつ高選択的に蛍光検出



生理 pH で染色可能な
リン酸化蛍光イメージング解析用の試薬です。

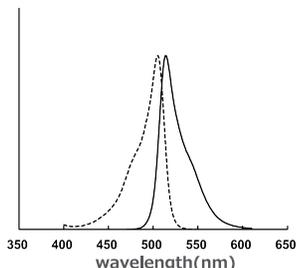
pSer、pThr、pTyr、pHis、および pAsp 残基に
選択的に結合します。

染色操作はおよそ 2 時間で完了します。

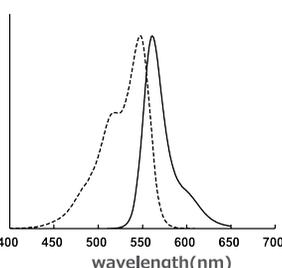
リン酸化タンパク質検出後の全タンパク質染色法も 適用可

Phos-tag SDS-PAGE や従来の SDS-PAGE と組み合わせて
可視化することも可能です。

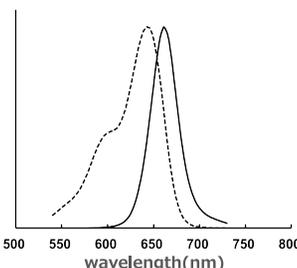
nPGS-Y01
Phos-tag™ Yellow
EX/Em = 505nm/514nm



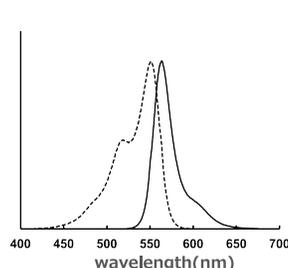
nPGS-M01
Phos-tag™ Magenta
EX/Em = 547nm/561nm



nPGS-C01
Phos-tag™ Cyan
EX/Em = 643nm/661nm



nPGS-A01
Phos-tag™ Aqua
EX/Em = 551nm/564nm



各 0.2mg ¥22,000-(消費税込)

専用の平衡化液 / 染色液 / 洗浄液用の共通バッファをご一緒にお買い求めください。

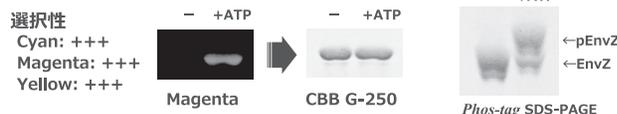
nPGS-MR1 **Mixde reagents for Phos-tag™ Common Solution 5x** 500mL 容器用 5,500-(消費税込)

解析例：バクテリア 2 成分伝達系リン酸化タンパク質

データご提供：広島大学医薬分子機能科学研究所 木下恵美子 先生、木下英司 先生、小池透 先生

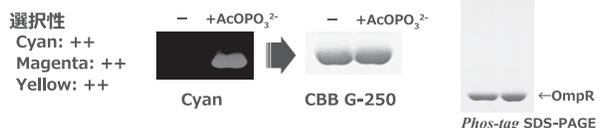
pHis- タンパク質の検出例

EnvZ: 浸透圧センサー

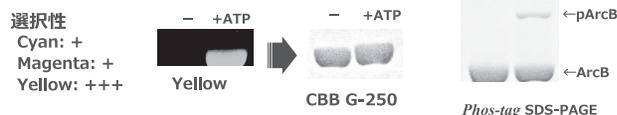


pAsp- タンパク質の検出例

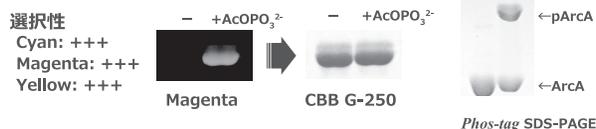
OmpR: 転写調節因子 (←EnvZ)



ArcB: 酸化還元センサー



ArcA: 転写調節因子 (←ArcB)



株式会社ナード研究所 神戸研究所 コーポレート研究部



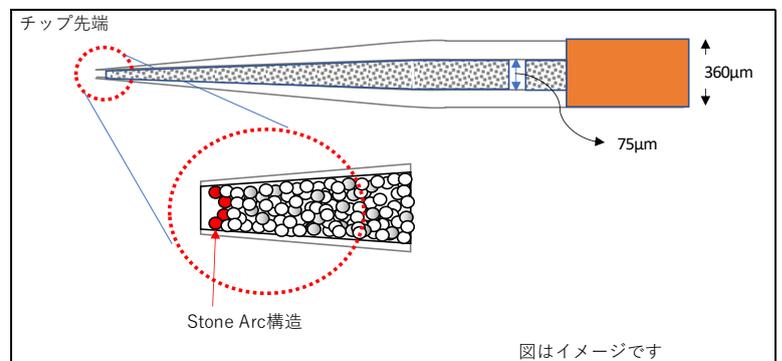
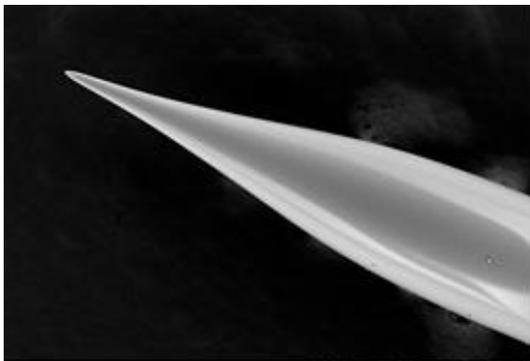
<https://www.nard.co.jp>

〒650-0047 神戸市中央区港島南町 5-4-1
TEL:078-958-7026 FAX:078-958-8026
E-mail:corporate@nard.co.jp

NANO HPLC CAPILLARY COLUMN

充填長 25 cm 以上のロングタイプ

弊社で製造販売しております、カラム・チップ一体型の NANO HPLC CAPILLARY COLUMN は現在質量分析装置 (MS) を用いた分析で広くご使用いただいておりますが、樹脂の充填の難しさから通常 15 cm 位までを充填長として販売をして参りました。その後さまざまなテストを繰り返し更にお客様にも評価していただき、現在充填長 25 cm を超える Long Type をご提供できるようになりました。これにより理論段数が増え、より分析精度を上げることが可能になりました。



- 弊社独自の Stone-Arch 方式を採用
最小 1.9 μm の粒子がアーチ状にキャッピングする構造
- カラムとチップが一体構造
デッドボリュームほぼゼロ。微量サンプルに最適
- 独自開発の充填技術によりロングカラムを実現
高感度化に最適
- 30 cm、40 cm 充填のロングタイプも製造可能
サンプルによりましてカラムヒーターをお使いください

日本プロテオーム学会 2022 年大会 ご参加の皆様へ 試験管ミキサー (卓上ミキサー) 寄贈のお伺い

◎ タイテックでは社会貢献活動の一貫として、研究・教育・検査に関わる皆様に、実験現場で汎用される卓上試験管ミキサーの**応募者全員プレゼント企画**を過去複数回行って参りました。2005 年からこれまで総計1万7千台以上を寄贈しております。本ミキサーは過去ユーザー様から頂いた「使用中に動き回らないミキサーが欲しい」というご意見を元に、バランスを追求した独自形状の製品を開発したものです。ユーザー様の声を製品に活かしフィードバックする。弊社のモットー「ユーザー直結」の象徴とも言える製品であり、折に触れ寄贈を行ってきました。



◎ 2020 年からは「**学会ミキサー企画**」と称し、日本の各地で行われる大小多数の学会大会への支援企画として、各リアル・オンライン大会参加の皆様へ試験管ミキサーをプレゼントする企画を開始致しました。大好評につき今年も継続いたします。

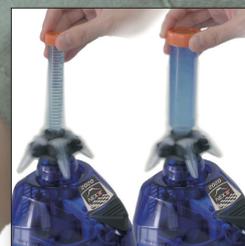
◎ 弊社「**学会ミキサー**」を、学会を盛上げる支援企画として、困難な状況下で研究を続ける皆様へのご助力として寄贈を行いたく考えております。(本体、送料全て弊社負担)。

一度に複数台のお申し込みも可能ですので、どうぞ遠慮なく。皆様のご応募をお待ちしております。



「学会ミキサー」仕様 (弊社試験管ミキサー Se-04 同等品)

- 攪拌方式
水平偏芯震動式、約 2800r/min (固定)、連続運転
- 適用容器/架数
手持ち攪拌：マイクロチューブ各種～ 50mL 遠沈管
固定攪拌：0.5 mL マイクロチューブ×4 本+ 1.5/2mL マイクロチューブ×4 本



【応募フォーム】 <https://taitec.net/g-mixer-jpros>
もしくは左の二次元バーコードからご応募ください。
受付：2022/8/1～8/17 まで。
後日、弊社より宅配便にて直送いたします。

※ご記入頂いた個人情報は個人情報保護法に従い、細心の注意を払って厳重に管理いたします。個人情報は製品のご送付とアフターサービス以外の目的には使用いたしません。
 ※ご記入頂いた個人情報はお客様の承諾を得た上で、前項の目的の範囲内で、弊社の関係会社および業務委託先(宅配便会社)に提供させていただきます。

XV PANTERA MP SYSTEM 高速SDS-PAGEシステム

高速泳動15分、ウェット式超高速ブロッティング15分を実現！
高分子タンパクに最適なウェット式！特別な消耗品がないので低コスト！



ブロッティング時間

- ★ 高分子タンパク (150~350kDa) は 15分
- ★ 中・低分子タンパク (150kDa以下) は 5~8分

ERICA-MP 高速電気泳動槽

外 寸：143W×74D×111Hmm
泳動可能枚数：2枚
冷 却 方 式：完全下部バッファ冷却方式
バッファ容量：約350ml

MINICA-MP ブロッティング装置

外 寸：143W×74D×111Hmm
電 極：白金メッキプレート
必要バッファ量：270ml
最大ゲルサイズ：92W×52Hmm
処理可能枚数：2枚

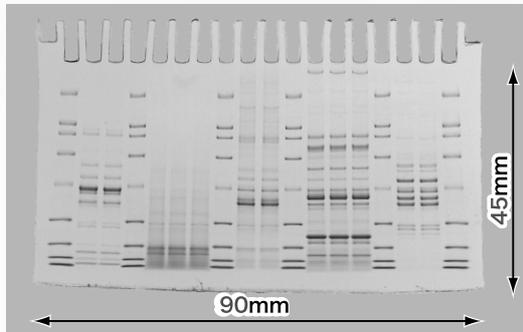
KYOCA-TR Power Supply

タッチパネル・自動回転液晶 ディスプレイを採用！
出 力 範 囲：10~300V 1Vステップ設定
4~400mA 1mAステップ設定
Max 100W
出 力 設 定：定電圧制御、定電流制御
リミット値に達するとクロスオーバーコントロール

XV PANTERA MP Gel

カセットサイズ：110×65mm
ゲルサイズ：90×45×1.0mm
コームタイプ：9、12、18、20、2-D (2次元用)

マルチチャンネルピペットに対応した XV PANTERA Gel
よりひとまわり大きなゲルサイズです。



★ ERICA-MP 高速電気泳動槽 は、プリキャストゲルはもちろん自作ゲルでの泳動も可能です！

バージョンアップ!

極節約くん ウェスタン用抗原・抗体反応増強試薬

極節約くんの主成分は、抗原・抗体の接触頻度を上げて、特異的抗原抗体反応を高めるポリマーと非特異的な結合を低下させるポリマーです。

- 抗体量を約 1 / 10 に節約、反応時間も短縮してコストダウンが行えます！
*抗体の節約量は、使用される抗体により変わります。
- 1液タイプでReady-to-Use！一次・二次抗体を本製品で希釈するだけです。
- 100%化学成分なので、サンプルを選びません。高い汎用性を実現！
- リン酸を除去しているので、リン酸化タンパク質の検出にも最適！
- XV PANTERA MP SYSTEM との組合せによりさらに抗体量を節約できます。



抗体品質評価受託サービス

ヒトタンパク質マイクロアレイにより、ご検討中の抗体の標的異特性/
非特異性評価、精製度評価を正しく行うサービスをご提供いたします。

- ◆ ガラス基板に 16,684 種類のヒトタンパク質をアレイ状にスポットしてあります。
- ◆ ヒトタンパク質マイクロアレイは、血中の自己抗体のプロファイリングを行えます。
- ◆ タンパク質マイクロアレイは、多種多様なタンパク質を搭載可能で、ガン、免疫、感染症、アレルギー等様々な研究に適用可能です。お気軽にご相談下さい。



ディー・アール・シー株式会社
http://www.drc2002.com

〒206-0033 東京都多摩市落合1-6-2サンライズ増田ビル
Tel:042-310-1331 / Fax:042-310-1332

今日の Denka が、 未来をつくる。

新しい日常から広がる、新しい世界。
地球規模で世の中が変化し続ける今
多様化する社会の課題にこたえるために
デンカは挑戦し続けています。

100年を越える伝統と
最新のテクノロジーを融合させ
化学の未知なる可能性を切りひらくこと。
まだ見ぬ未来のニーズを予測し
世の中に新しい価値を提案し続けること。

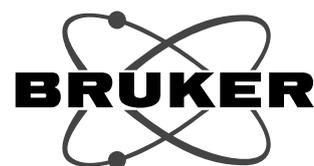
環境・エネルギー分野での先端素材の開発や
ライフサイエンス領域のさらなる推進など
私たちは「社会にとってかけがえのない存在」となる
企業をめざし、未来に向けて前進していきます。

できるをつくる。

Denka

デンカ株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
www.denka.co.jp

timsTOF SCP



バイアスの無い定量的な シングルセル プロテオミクス (SCP) 研究



シングルセル研究の幅を拡張

質量分析によるプロテオミクスは生体機能や疾患のメカニズムを解明するための重要な現代の研究の要素になっています。一見均質に見える健康、疾患組織は、さまざまな異なるプロテオームを持つ細胞で構成されています。それぞれの細胞のプロテオームを解読することは、その機能を完全に理解するための鍵となり、現在まで大きな課題となっていました。

- **4D** プロテオミクス - バイアスの無いシングルセル、イムノペプチドミクスおよびCCSを利用した翻訳後修飾解析(4D-エピプロテオミクス)
- **PASEF® acquisition** - イオンを収束させノイズを除去したクリーンなMSおよびMS/MSスペクトルを100Hz以上の速度で取得
- **シングルセル感度** - PASEFの原理に連動した新しいイオン源構造

詳細については、www.bruker.com をご覧ください。



本製品は研究用です。臨床での診断には使用できません。

TIMS-QTOF MS

Innovation with Integrity

ブルカージャパン株式会社 ダルトニクス事業部

● 横浜営業所

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町 3-9
TEL: 045-440-0471 FAX: 045-453-1827

● 大阪営業所

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-8-297ラサキ第2ビル2F
TEL: 06-6396-8211 FAX: 06-6396-1118

Mascot Server 蛋白質ペプチド配列検索同定

The leading software package for protein identification and characterisation using mass spectrometry data

Mascot Daemon 検索自動化

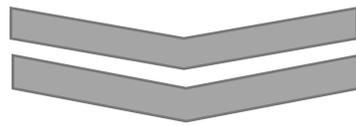
The client application for automating the submission of data files to Mascot Server

Mascot Distiller ピーク抽出、*de novo*、定量解析

The single, intuitive interface to a wide range of mass spectrometry data files

15N artefact benchmark
 carbamidomethyl cluster
 configuration files
 contaminants dark matter
 database manager
 delta mass DNA error
 tolerant export Fasta
 FDR fragmentation history
 odoacetamide Mascot
 Daemon Mascot
 Distiller mass tolerant
 metaproteomics methylation MGF
 modification
 mzIdentML mzTab open search
 pc hardware peak
 picking PMF protein
 inference PSI
 quantitation scoring
 security site analysis
 spectral library
 statistics sysadmin
 tutorial Unimod virtual
 machine XML

<DDA 解析ワークフロー>

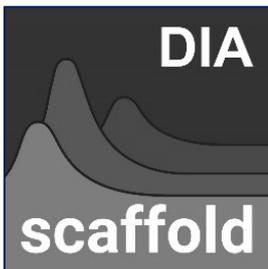


Scaffold5, LFQ 同定タンパク質サンプル間比較



Scaffold PTM 翻訳後修飾解析

<DIA 定性/定量プロテオーム解析>



DIA 解析において、RAW データから定性・定量解析、統計解析とその結果表示までの一連作業がワンパッケージで行えるソフトウェアです

#	Protein Name	MW	Abundance	Score	Score	Score
1	AQUA4SWATH_HMLangeB	AQU... 38 kDa	30	261.355	3.84	3.55
2	AQUA4SWATH_MycoplasmaSch...	AQU... 36 kDa	28	217.993	3.68	3.13
3	AQUA4SWATH_HMLangeE	AQU... 31 kDa	23	205.007	3.65	3.30
4	AQUA4SWATH_PombeSchmidt	AQU... 31 kDa	22	203.837	3.32	3.14
5	AQUA4SWATH_Spyo	AQU... 29 kDa	23	201.845	3.69	3.06
6	AQUA4SWATH_Tuberculosis	AQU... 28 kDa	24	198.694	3.62	3.18
7	AQUA4SWATH_MouseSabido	AQU... 28 kDa	24	194.299	3.80	3.24

機能性表示食品

今日を愛する。
LION

[届出表示] 本品にはラクトフェリンが含まれるので、
内臓脂肪を減らすのを助け、高めのBMI^{*1}の改善に役立ちます。

腸まで届ける ナイスリムエッセンス ラクトフェリン

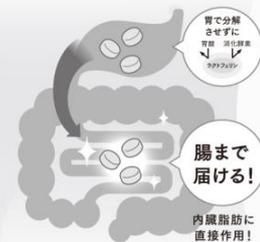
内臓脂肪が
気になる方へ

- 食べすぎが気になる
- 健康を維持していきたい
- 内臓脂肪を減らしたい



重要なのは
「腸まで届ける」ことでした
ライオンの独自技術を採用 [特許第6304234号]

ラクトフェリンを内臓脂肪にはたらかせるには、
胃で分解させずに「腸」まで届けることが重要。
ライオンは、「独自コーティング技術」を採用し、
きちんと「腸まで届ける」ことに成功しました。

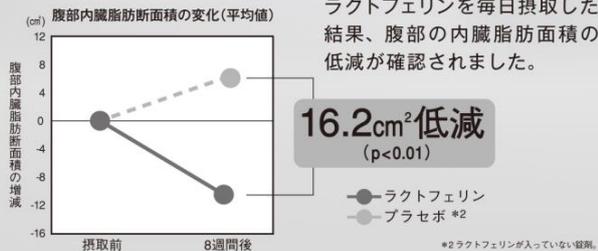


機能性関与成分:ラクトフェリン
届出番号: D23

ライオンは、世界に先駆けてラクトフェリンの優れた健康作用に着目。
長年の研究によって、内臓脂肪低減効果を臨床試験で確認しました。

*1 BMIは肥満度の判定に使われる数値です。身長と体重から計算されます。

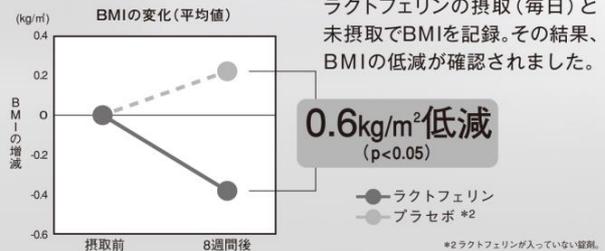
内臓脂肪の低減



腹部肥満傾向の健康な成人男女(n=26)を対象にラクトフェリン(300mg/日)が入っている錠剤あるいは入っていない錠剤を8週間摂取してもらい、内臓脂肪面積とBMIの変化を調べた(1)。本結果の試験実施者からBMI<30、及びLDLコレステロール値が健常域である13名を対象にして解析した結果をグラフ化した(2)。内臓脂肪面積の変化、BMIの変化共に有意な変化が見られた(Student's t-test)。

出典 (1) British Journal of Nutrition(2010), 104, 1688-95 (2) Immunology, Endocrine & Metabolic Agents in Medicinal Chemistry, in press

高めのBMIの改善



ライオンの「ラクトフェリン」は、「腸まで届ける+ダブルの働き」で内臓脂肪を減らします。

腸まで届いたラクトフェリンは、腸まわりの脂肪細胞(内臓脂肪)に直接作用。脂肪細胞などを用いた研究によって、「脂肪の分解を促す^{*3}」「脂肪の合成を抑制する^{*4}」というダブルの働きで内臓脂肪の低減をサポートすると考察しています。

*3 Biosci. Biotechnol. Biochem., 77, 566-71, 2013, *4 Br. J. Nutr., 105, 200-11, 2011

内容量: 93粒(1粒重量 335mg)
ラクトフェリン300mg配合[3粒(1.01g)あたり]

原材料名: マルチトール(国内製造)、デキストリン、ヒソトキス/ラクトフェリン(乳由来)、結晶セルロース、HPMC、アルギン酸Na、CMC-Ca、
微粒子化ケイ素、グリセリン、タルク、ステアリン酸Ca

*食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

お問い合わせ・お申し込みはこちらまで。

0120-056-208

通話料無料

受付時間 9:00~20:00
年中無休

<https://www.lionshop.jp/>

LION ウェルネスダイレクト

ライオン株式会社 通販事業部 〒130-8544 東京都墨田区横綱 1-2-22

池田理化は「理化学機器の総合商社」として

これからも、先端科学の研究を支え続けます

研究活動の最前線で
未来づくりをサポートします。

We support the creation of the future at the
forefront of research activities.



株式会社 池田理化

本社 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-8-6 神田KSビル
TEL:03-5256-1811 FAX:03-5256-1818

札幌支店	TEL:011-208-2822	鶴見支店	TEL:045-501-5881
仙台支店	TEL:022-217-7037	平塚支店	TEL:0463-37-4711
つくば支店	TEL:029-836-6611	藤沢支店	TEL:0466-54-0300
宇都宮支店	TEL:028-610-3722	三島支店	TEL:055-975-0975
埼玉支店	TEL:049-245-7831	藤枝支店	TEL:054-644-5551
千葉支店	TEL:043-290-4055	名古屋支店	TEL:052-249-8350
八王子支店	TEL:042-642-0570	大阪支店	TEL:06-6136-1255
小金井支店	TEL:0422-39-5441	岩国支店	TEL:0827-21-6701
横浜支店	TEL:045-983-0491		

～研究者様へ徹底したサポートを追及～

株式会社ウインクスは、おかげさまで一昨年創立30周年を迎えることが出来ました。
今後もバイオ・ライフサイエンス研究や科学技術研究のお客様に最先端の機器、ソフトウェア、消耗品、試薬等をご提供して参ります。
お客様のニーズにお応えできるよう、国内外のメーカーの製品を幅広く取り扱い、最先端の情報提供、最適な製品販売と迅速なサービス・サポートを追及して参ります。



主要取扱メーカー



エーエムアール株式会社

ThermoFisher
SCIENTIFIC



株式会社ウインクス

winX

お問い合わせはこちら

TEL.072-631-8810 FAX. 072-631-8820

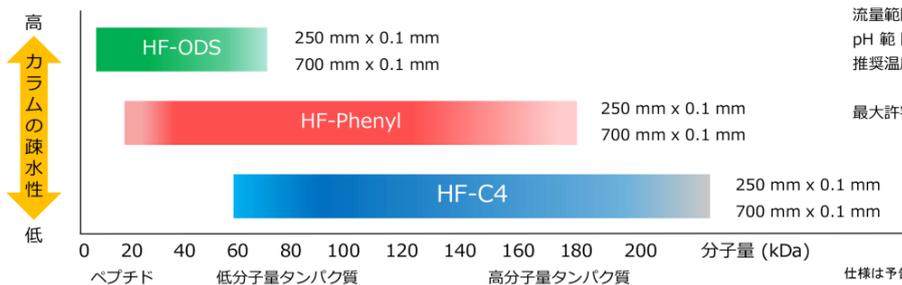
〒567-0037 大阪府茨木市上穂東町4-24

<http://www.winx-inc.co.jp>

Nano Flow LC 高分解能モノリス型シリカキャピラリーカラム ULTRON HFシリーズ

ULTRON HFシリーズは、階層的な多孔構造を有するモノリス型シリカを採用したキャピラリーカラムです。

分子量の比較的大きなペプチド、インタクトタンパク質の高感度、高精度分離分析に取り組まれている皆様へULTRON HFシリーズをお勧め致します。

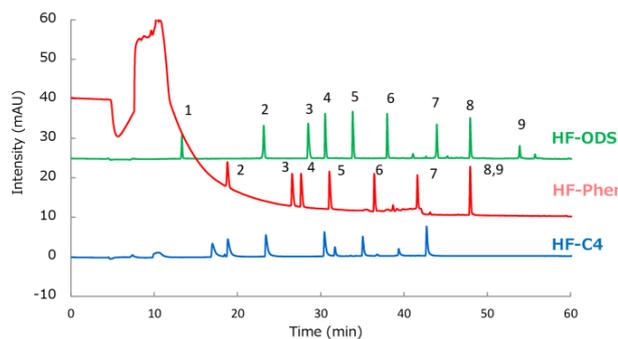


流量範囲 推奨範囲: 300~500 nL/min
 pH 範囲 推奨範囲: 2.0~8.0
 推奨温度範囲 FEP スリーブ: 30~50°C (Max. temp. 50°C)
 PEEK スリーブ: 30~60°C (Max. temp. 60°C)
 最大許容圧力 FEP スリーブ: 20.0 MPa
 PEEK スリーブ: 30.0 MPa

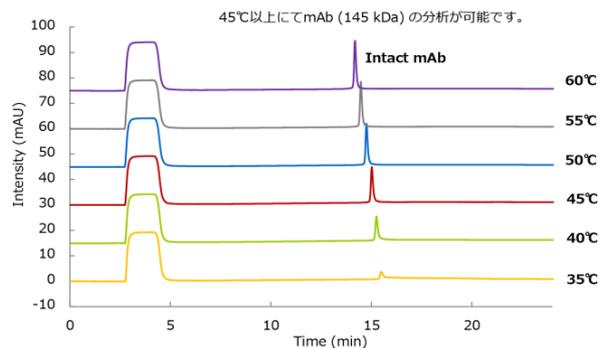
分析相談、デモカラムの相談も承ります。

仕様は予告なしに変更をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。

ULTRON HFシリーズのペプチドの分離パターン



ULTRON HF-C4を使ったモノクローナル抗体測定におけるカラム温度の影響



お問合せ先

 SHINWA CHEMICAL INDUSTRIES LTD.

〒612-8307 京都市伏見区景勝町50番地2
 TEL 075-621-2360 FAX 075-602-2660

E-mail: info@shinwa-cpc.co.jp
 URL: <https://shinwa-cpc.co.jp/>

日本プロテオーム学会2022年大会 JPrOS2022 (20th JHUPO)

謝辞

大会開催にあたり、ご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

後援 日本医用マススペクトル学会
日本蛋白質科学会
日本電気泳動学会
日本臨床プロテオゲノミクス学会

協賛 インフォコム株式会社
エーエムアール株式会社
大塚製薬株式会社
尾崎理化学株式会社
株式会社 池田理化学
株式会社 ウィンクス
株式会社 エル・イー・テクノロジーズ
株式会社 エービー・サイエックス
株式会社 大阪ソーダ
株式会社 KMデータ
株式会社 島津製作所
株式会社 スクラム
株式会社 東レリサーチセンター
株式会社 ナード研究所
株式会社 ファーマフーズ アプロサイエンスグループ
株式会社 メディカル・プロテオスコープ
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
信和化工株式会社
タイテック株式会社
テクノアルファ株式会社
ディー・アール・シー株式会社
デンカ株式会社
日京テクノス株式会社
ニッポーメディカル株式会社
日本カンタム・デザイン株式会社
BGI JAPAN株式会社
ブルカージャパン株式会社
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
プロメガ株式会社
マトリックスサイエンス株式会社
メルク株式会社
ライオン株式会社

飲料提供 株式会社 伊藤園
ハウスウェルネスフーズ株式会社

協力 学校法人北里研究所

(50音順)

スケジュール

8/7 (日) オンライン

20 21 22 23 24

21:30-24:00
Pre-Congress Webinar
Top-Down Proteomics
座長: 武藤隆雄

8/8 (月)

9 10 11 12 13

9:30-10:15
A会場 (大講義室63)
基調講演1
朝長毅
座長: 本田一文

10:15-11:25
B会場 (講義室41)
基調講演2
朝長毅
座長: 近藤裕

11:30-12:20
A会場 (大講義室63)
基調講演3
Jim Han
座長: 近藤裕

12:15-13:30
特別講演1
田中耕一
座長: 小寺隆男

13:30-15:30
プロテオミクス教育講演
座長: 笠原直, 田後大輔

15:30-16:30
JPROS
活動紹介
座長: 大橋剛男, 栗田修二郎

16:30-17:30
JPROS2022
シンポジウム紹介
座長: 荒木香江, 平野久

17:30-18:30
ワークショッップ1
スキルアップ
座長: 岩瀬泰

18:30-19:30
ワークショッップ2
スキルアップ
座長: 岩瀬泰

19:30-20:30
ワークショッップ3
ジョブマッチングカフェ
座長: 岩崎栄央

16:00-19:30
企業展示・ポスター掲示

8/9 (火)

9 10 11 12 13

9:30-10:15
A会場 (大講義室63)
基調講演1
朝長毅
座長: 本田一文

10:15-11:25
B会場 (講義室41)
基調講演2
朝長毅
座長: 近藤裕

11:30-12:20
A会場 (大講義室63)
基調講演3
Jim Han
座長: 近藤裕

12:30-13:15
B会場 (講義室41)
基調講演4
朝長毅
座長: 小寺隆男

13:30-14:15
A会場 (大講義室63)
基調講演5
朝長毅
座長: 本田一文

14:30-15:15
B会場 (講義室41)
基調講演6
朝長毅
座長: 近藤裕

15:30-16:15
A会場 (大講義室63)
基調講演7
朝長毅
座長: 本田一文

16:30-17:15
B会場 (講義室41)
基調講演8
朝長毅
座長: 近藤裕

17:30-18:15
A会場 (大講義室63)
基調講演9
朝長毅
座長: 本田一文

18:30-19:15
B会場 (講義室41)
基調講演10
朝長毅
座長: 近藤裕

19:30-20:15
A会場 (大講義室63)
基調講演11
朝長毅
座長: 本田一文

20:30-21:15
B会場 (講義室41)
基調講演12
朝長毅
座長: 近藤裕

21:30-22:15
A会場 (大講義室63)
基調講演13
朝長毅
座長: 本田一文

22:30-23:15
B会場 (講義室41)
基調講演14
朝長毅
座長: 近藤裕

23:30-24:15
A会場 (大講義室63)
基調講演15
朝長毅
座長: 本田一文

16:00-19:30
企業展示・ポスター掲示

8/10 (水)

9 10 11 12 13

9:30-10:15
A会場 (大講義室63)
基調講演3
Jim Han
座長: 近藤裕

10:15-11:25
B会場 (講義室41)
基調講演4
朝長毅
座長: 小寺隆男

11:30-12:20
A会場 (大講義室63)
基調講演5
朝長毅
座長: 本田一文

12:30-13:15
B会場 (講義室41)
基調講演6
朝長毅
座長: 近藤裕

13:30-14:15
A会場 (大講義室63)
基調講演7
朝長毅
座長: 本田一文

14:30-15:15
B会場 (講義室41)
基調講演8
朝長毅
座長: 近藤裕

15:30-16:15
A会場 (大講義室63)
基調講演9
朝長毅
座長: 本田一文

16:30-17:15
B会場 (講義室41)
基調講演10
朝長毅
座長: 近藤裕

17:30-18:15
A会場 (大講義室63)
基調講演11
朝長毅
座長: 本田一文

18:30-19:15
B会場 (講義室41)
基調講演12
朝長毅
座長: 近藤裕

19:30-20:15
A会場 (大講義室63)
基調講演13
朝長毅
座長: 本田一文

20:30-21:15
B会場 (講義室41)
基調講演14
朝長毅
座長: 近藤裕

21:30-22:15
A会場 (大講義室63)
基調講演15
朝長毅
座長: 本田一文

22:30-23:15
B会場 (講義室41)
基調講演16
朝長毅
座長: 近藤裕

23:30-24:15
A会場 (大講義室63)
基調講演17
朝長毅
座長: 本田一文

16:00-19:30
企業展示・ポスター掲示

8/11 (木)

9 10 11 12 13

9:30-10:15
A会場 (大講義室63)
基調講演3
Jim Han
座長: 近藤裕

10:15-11:25
B会場 (講義室41)
基調講演4
朝長毅
座長: 小寺隆男

11:30-12:20
A会場 (大講義室63)
基調講演5
朝長毅
座長: 本田一文

12:30-13:15
B会場 (講義室41)
基調講演6
朝長毅
座長: 近藤裕

13:30-14:15
A会場 (大講義室63)
基調講演7
朝長毅
座長: 本田一文

14:30-15:15
B会場 (講義室41)
基調講演8
朝長毅
座長: 近藤裕

15:30-16:15
A会場 (大講義室63)
基調講演9
朝長毅
座長: 本田一文

16:30-17:15
B会場 (講義室41)
基調講演10
朝長毅
座長: 近藤裕

17:30-18:15
A会場 (大講義室63)
基調講演11
朝長毅
座長: 本田一文

18:30-19:15
B会場 (講義室41)
基調講演12
朝長毅
座長: 近藤裕

19:30-20:15
A会場 (大講義室63)
基調講演13
朝長毅
座長: 本田一文

20:30-21:15
B会場 (講義室41)
基調講演14
朝長毅
座長: 近藤裕

21:30-22:15
A会場 (大講義室63)
基調講演15
朝長毅
座長: 本田一文

22:30-23:15
B会場 (講義室41)
基調講演16
朝長毅
座長: 近藤裕

23:30-24:15
A会場 (大講義室63)
基調講演17
朝長毅
座長: 本田一文

16:00-19:30
企業展示・ポスター掲示